

内容解説資料



特設ウェブサイト
もご覧ください

歴総046-901『明解 歴史総合』

「教科書発行者行動規範」に則った資料です



文部科学省検定済教科書
46 帝国
歴総046-901
高等学校地理歴史科用

明解 歴史総合

わかりやすい!

ためになる!

現在につながる「世界×日本」
がわかる教科書



帝国書院

明解 歴史総合

令和8(2026)年度発刊
歴総046-901
AB判 248ページ

わかりやすい! ためになる!
現在につながる
「世界×日本」が
わかる教科書



令和4(2022)年度以降版

大刷新!



令和8(2026)年度以降版

『明解 歴史総合』に込めた思い

よりよい未来を考えられる歴史の教科書を目指して

著作者代表 東京学芸大学 教授 川手圭一
帝国書院 編集部

この世界は、先人たちの歩んだ長い歴史の上に成り立っています。人は、その過去の歴史から学び、未来への指針を得てきました。今日、私たちの生きる世界は、人工知能(AI)のようなこれまでの常識を大きく覆す科学技術の進展と、世界を駆け巡るさまざまな情報の渦の中にあります。どの情報を信じて良いのかと、戸惑うことも少なくありません。この激変する社会のうねりを前に、歴史から学ぶことがどれほどあるのかと、いぶかる声すら聞こえてきそうです。

しかし、歴史から学ぶとは、過去の事実を知るだけでなく、その原因と成り立ちを理解し、現代的な視点から考えることにあります。私たち執筆者は、高校生に、歴史を通して現代社会について考え、その学びを、未来を生きる力にしてほしいと願っています。

歴史総合は、自国史と世界史を一体とした新しい歴史科目として、世界各地に生きる人たちとつながり、高校生のみなさんがいま生きる世界を考える手がかりとなるものです。その教科書として、本書は、高校生に知ってほしい歴史の事実を時系列に沿って構成しました。また、それを考える際に役立つ資料やデータ、そして分析する方法を盛り込みました。

迫りくる環境破壊、繰り返される戦争や対立と、不確かで不安定に見える世界であっても、高校生が決してひるまず、未来に向けた力を養っていくうえで、本書が少しでも役立つことを願ってやみません。

本資料のもくじ

全体構成 4

特色 ①

世界と日本の歴史的なつながりが見える教科書

- 世界と日本の出来事に関連が理解できる単元構成 6
- テーマに沿って世界と日本の動きが大観できる「明解! 近現代史」 10
- 世界と日本の相互の関係がとらえられる「生活・文化から見る日本と世界」 12
- 世界と日本の前近代史がコンパクトにまとまった「前近代資料 地域の歩み」 14

特色 ②

主体的に歴史を考察する力が身につく教科書

- アクティブ・ラーニングで思考力・判断力・表現力を育む「歴史に迫る!」 16
- 身近な題材から時代を考察できる「探究レポート」 18
- 多面的・多角的な視点が身につく3つのコラム 20

特色 ③

見通し・振り返りの充実で学習内容が着実に深まる教科書

- 資料をもとに問いを立てられる各部の導入 22
- 学習の流れを把握して見通しを立てられる「章扉」 24
- 「現代的な諸課題」と結びつけて考えられる「振り返りページ」 26

見開き構成 28

単元紹介

近代化
と私たち

..... 30

単元紹介

国際秩序の
変化や大衆化
と私たち

..... 32

単元紹介

グローバル化
と私たち

..... 34

QRコンテンツ

..... 36

関連教材

..... 38

特色一覧・
著作関係者

..... 40

全体構成

特色 ①

特色 ②

特色 ③

見開き構成

単元紹介

QRコンテンツ

関連教材

時系列に沿った学習ができる 構成

- 全編にわたり、本文の流れは時系列で展開しつつ、単元(章)は学習指導要領で提示されているテーマに沿った学習ができるように構成しました。
- 本文ページは1見開き1時限で授業が進められ、1年間で無理なく歴史総合の内容が身につく構成にしています(全57見開き)。

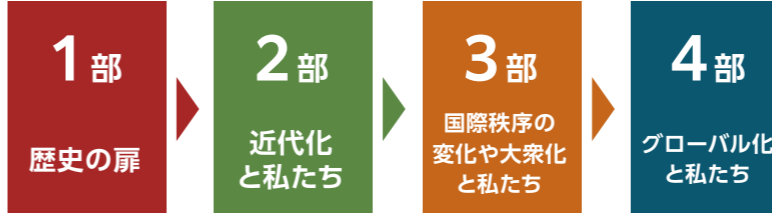
●本書の構成

資料

前近代資料
地域の歩み
1~5

+

本編：1~4部



POINT 3

3部では、第一次世界大戦から民族自決までを一つの章で扱ったり、「第二次世界大戦とその影響」を一つの章として扱ったりすることで、二度の世界大戦の始まりから、その後の世界に与えた影響までを、それぞれ一連の流れで理解できるようにしています。

POINT 1

「前近代資料 地域の歩み」を設置し、地域ごとに前近代史を確認できるようにしています。授業時には含まれていないため、必要に応じてご使用いただけます。

▼巻頭3-4

もくじ

現在の世界	巻頭1
もくじ	巻頭3
本書の使い方	巻頭5
歴史に関連するQR動画を観てみよう!	巻頭7
はじめに	巻頭8

前近代資料 地域の歩み	
1 東アジアの文明	
1 東アジアの風土と人々	巻頭9
2 日本の歴史①	巻頭11
3 日本の歴史②	巻頭13
4 東アジアの歴史	巻頭15
2 南・東南アジアの文明	
1 南・東南アジアの風土と人々	巻頭17
2 南・東南アジアの歴史	巻頭19
3 西アジア・北アフリカの文明	
1 西アジア・北アフリカの風土と人々	巻頭21
2 西アジア・北アフリカの歴史	巻頭23
4 ヨーロッパの文明	
1 ヨーロッパの風土と人々	巻頭25
2 ヨーロッパの歴史①	巻頭27
3 ヨーロッパの歴史②	巻頭29
5 南北アメリカの文明	
1 南北アメリカの風土と人々	巻頭31
2 南北アメリカの歴史	巻頭32

1部 歴史の扉	
1章 歴史と私たち	
2章 歴史の特質と資料	
1節 資料を取り扱ってみよう	3
技説 ①資料の特質と読み解き	5
②資料の比較・関連づけ	7
2節 歴史叙述とは何か考えてみよう	8

2部 近代化と私たち	
18世紀までの世界	
「近代化」を学ぶ前に中学校の学習を確認しよう!	
1章 「近代化」への問い	11
2章 江戸時代の日本と結びつく世界	
1節 アジアのなかの江戸社会	19
2節 清の繁栄と結びつくアジア	21
3節 アジア・アメリカに向かうヨーロッパ	23
生活・文化から見る日本と世界① 江戸後期	
3章 欧米で生まれる国民国家	
1節 イギリスの革命とアメリカの独立	29
2節 フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開け	31
3節 革命の拡大と国民意識の芽生え	35
4節 1848年～近代ヨーロッパの転換点	37
5節 イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化	39
4章 産業革命による欧米とアジアの変化	
1節 産業革命で変わる社会	43
2節 イギリスの繁栄と国際分業体制	45
3節 アメリカの拡大と科学技術の発展	47
4節 「西洋の衝撃」と西アジアの変化	49
5節 南・東南アジアの植民地化	51
6節 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争	53
7節 黒船の来航と日本の対応	55
5章 日本における近代国家の形成	
1節 新体制の模索と江戸幕府の滅亡	61
2節 新政府の誕生	63
3節 近代国家を目指す日本	65
生活・文化から見る日本と世界② 明治期	
6章 帝国主義の影響と日本を含めた東アジアの変化	
1節 帝国主義の広がり人々の移動	71
2節 世界市場と日本の産業革命	73
3節 変動する東アジアと日清戦争	75
4節 列強の中国進出と日露戦争	77
5節 日露戦争が与えた影響	79
7章 「近代化」を振り返り	
現代的な諸課題と結びつけて考えよう	
明解! 近現代史① 産業革命と工業化の広がり	83

3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	
「国際秩序の変化や大衆化」を学ぶ前に	
中学校の学習を確認しよう!	
1章 「国際秩序の変化や大衆化」への問い	87
2章 第一次世界大戦とその影響	
1節 バルカン半島の緊張と世界大戦への道	93
2節 第一次世界大戦の展開とロシア革命	95
3節 大戦終結後のヴェルサイユ体制	101
4節 東アジアの民族自決の行方	103
5節 中東・インドの民族自決の行方	105
3章 大衆社会の形成と社会運動	
1節 大衆社会の出現とアメリカの繁栄	109
2節 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加	111
3節 日本における大衆社会の形成	113
4節 政党政治と国際協調外交の発展	115
生活・文化から見る日本と世界③ 大正期	
4章 揺らぐ国際秩序と日本の行方	
1節 世界恐慌が与えた影響	121
2節 ファシズムの台頭と拡大	123
3節 政党政治の断絶と満洲事変	127
4節 日中戦争の始まり	129
5章 第二次世界大戦とその影響	
1節 第二次世界大戦の始まりと拡大	133
2節 太平洋戦争の開始とその展開	135
3節 第二次世界大戦の終結とその傷跡	137
生活・文化から見る日本と世界④ 戦中期	
4節 戦後処理と日本の改革	141
5節 新たな国際秩序と冷戦の始まり	143
6節 日本撤退後の東アジア	145
7節 冷戦の展開と日本の独立	147
6章 「国際秩序の変化や大衆化」を振り返り	
現代的な諸課題と結びつけて考えよう	
明解! 近現代史② 戦争の変化と平和への努力	151

4部 グローバル化と私たち	
「グローバル化」を学ぶ前に中学校の学習を確認しよう!	
1章 「グローバル化」への問い	155
2章 冷戦で揺れる世界と日本	
1節 スターリン批判と日本の国際社会復帰	161
2節 米ソの緊張緩和と各国の動向	163
3節 第三勢力の形成と脱植民地化	169
4節 パレスチナ問題と中東戦争	171
生活・文化から見る日本と世界⑤ 高度経済成長期	
3章 多極化する世界	
1節 ベトナム戦争と揺らぐアメリカ	177
2節 冷戦下の日本とアジアの歩み	179
3節 「経済大国」日本の影響	181
4節 経済発展に取り組む東・東南アジア	183
5節 中東情勢とソ連の弱体化	185
4章 グローバル化のなかの世界と日本	
1節 冷戦の終結と変わる世界構造	189
2節 冷戦の終結が与えた世界への影響	191
3節 超大国アメリカと中東情勢	193
4節 国際環境の変化と日本	195
5節 グローバル化による国際社会の変容	197
5章 「歴史総合」を振り返り	
現代的な諸課題の形成と展望を考えよう	
技説 ③情報の集め方	202
④レポートや小論文の書き方	204
さくいん	205
現在の日本と世界文化遺産	211
歴史総合 頻出用語解説	巻末1
世界の歴史年表	巻末2

本文ページ
57
見開き

POINT 2

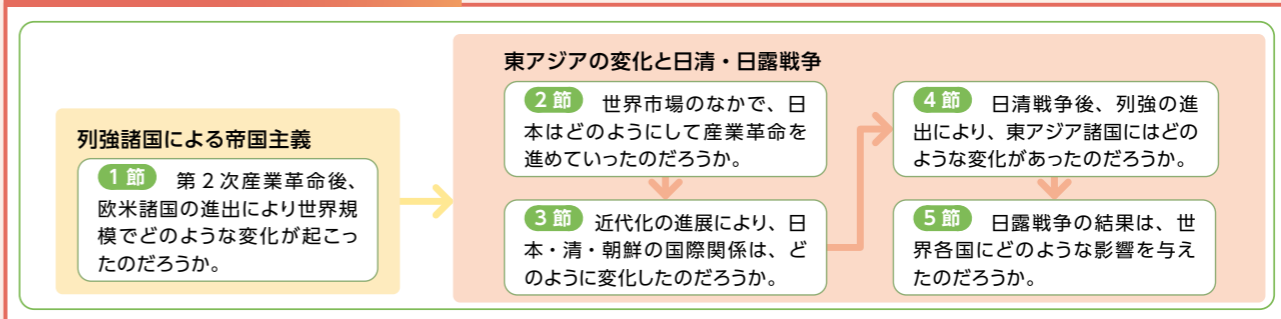
2部では、章の配列や区切り、文章を、時系列に沿ったより学びやすい構成に変更しました。例えば、2部6章では、「帝国主義」「世界市場と日本の産業革命(新規ページ)」「日清・日露戦争」を章内にまとめて、「帝国主義の影響と日本を含めた東アジアの変化」をテーマとした学習をしやすくしています。

POINT 4

4部では、戦後史における日本の記述を強化しました。本文記述の再編を行い、日本の国連加盟や高度経済成長、経済戦略などを世界の同時代の動きと関連させながら記述しています。

2部6章 「帝国主義の影響と日本を含めた東アジアの変化」を例に

2部6章の問いの構造図



教科書p.71-72 1節 帝国主義の広がり与人々の移動

▼ p.71-72

▼ p.73-74

POINT 1

重化学工業による第2次産業革命を機に、市場拡大や国外投資の場を求めた欧米諸国を中心に「帝国主義」が広がったことを記述しています。また、資本主義が発展し、新たな労働力として世界各地で移民が受け入れられるなど、人々の移動が盛んに行われたことがわかります。

世界市場

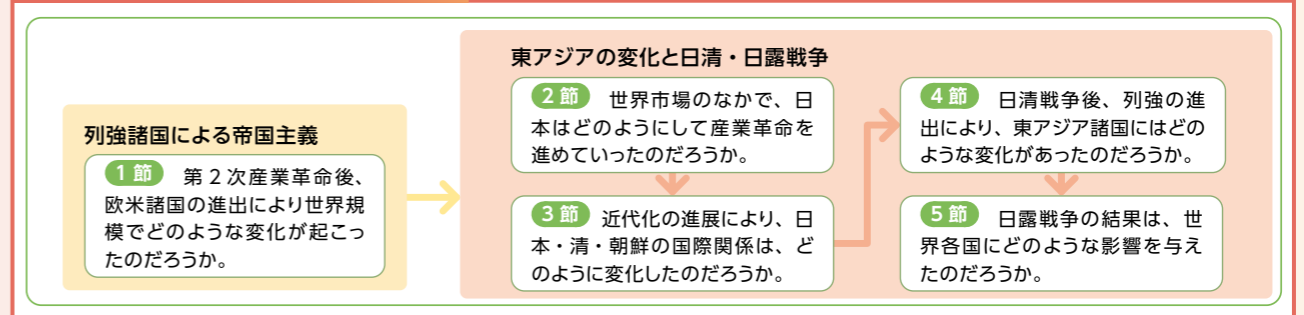
が成立

POINT 2

世界市場が成立し、インフラ整備が進んだことで、アジア間貿易も盛んに行われたことがわかります。それに伴い、日本も富国強兵を目指し、殖産興業や貨幣制度の安定化を進めたことで、産業革命が本格化していくこともわかります。

2部6章 「帝国主義の影響と日本を含めた東アジアの変化」を例に

2部6章の問いの構造図



- 2部6章3節～5節では、日本・清・朝鮮それぞれの近代化に、日清戦争・日露戦争や世界の動きがどのように関わっていったのかがわかるようにしました。
- 1節～5節を学習することで、帝国主義の動きは、近代化が進む東アジア諸国の関係にどのような影響を与えたのかを理解できるようにしています。

教科書p.75-76

3節

変動する東アジアと日清戦争

▼ p.75-76

3 変動する東アジアと日清戦争

近代化の進展により、日本・清・朝鮮の国際関係は、どのように変化したのだろうか。

1871年に締結した清は、日本と対等な日清修好条約を締結し、清は日本と通商を認め、互いの領土を侵襲せず、永久に安全なものとする。

1894年、朝鮮に大規模な農民反乱が起こった(甲午農民戦争)。朝鮮は、清に援助を求めたが、清国軍の出兵に反対して日本も朝鮮に出兵した。農民軍は朝鮮政府と急ぎ和解したが、清と日本は互いに譲歩せずに対立を深め、日清戦争に発展した。日本軍は清軍を圧倒し、95年に結んだ下関条約で、日本は清に、朝鮮の独立、遼東半島、台湾などの割譲、多額の賠償金を、清の開港場で製造業を経営する権利を認めさせた。日本政府は清から得た賠償金で産業の発展と国内整備を図り、国民は戦勝を祝った。

日本は、東アジア唯一の植民地帝国となり、対外進出が始まった。しかし、清での利権拡張を狙うロシアがドイツ・フランスと共に三国干渉を行い、遼東半島は清に返還された。清は欧米的な外交体制に順応しつつあったが、従来の冊封体制に基づいて朝鮮などを事実上の属国とみなし、朝鮮にも貿易統制を続けた。日本の新政府は、欧米的な国際関係を結ぶ新たな体制を朝鮮に求めたが受け入れられず、一時、日本国内で征韓論が高まった。75年、日本は朝鮮沿岸で挑発的な軍事演習を行い、朝鮮が陥落した(巨濟島事件)を口実に、翌76年に不平等条約である日朝修好通商条約を朝鮮に開国させた。

開国後の朝鮮では、日本の明治精神にならおうとする開化派と、清に従おうとする保守派の間で政争が生じた。保守派の軍人が、国王・高宗の父である大院君を支持して開化派の至親・閔妃らを襲う甲午軍乱や、開化派の金大院による甲午政変が起こったが、開化派は争いに敗れ、日本の影響力は高まった。この結果、日本国内ではアジア諸国に対し、列強にならざるを得ない強権を行使する動きが広がった。

POINT 3

日本だけでなく、清や朝鮮でも近代化の動きが高まったことがわかります。また、開国の影響で経済が混乱した朝鮮で農民反乱が起こり、そこに東アジアの主導権を争う日本と清が干渉したことで、日清戦争に発展したことがわかります。

下関条約を締結
清による冊封体制が崩壊

教科書p.77-78

4節

列強の中国進出と日露戦争

▼ p.77-78

4 列強の中国進出と日露戦争

日清戦争後、列強の進出により、東アジア諸国にはどのような変化があったのだろうか。

アフリカでの争いが収束しつつあったヨーロッパ諸国は、半植民地化。日清戦争の結果で清の国力の衰えを知り、中国への勢力拡大を本格化させた。各地に列強の租借地が設けられ、清は半植民地状態となった。この過程で布教が進んだキリスト教は、清の伝統や習慣と対立し、外国勢力の跋扈とみなされて民衆の激しい排外運動の標的となった。こうしてなると、キリスト教布教を目標とする義和団が勢力を急速に拡大し、鉄道・電信といった欧米由来の施設も攻撃して、1900年には北京の外国公使館を包囲した。清は清の保守派とこれを利用して諸外国に宣戦布告したが、日本・ロシアを主とする8か国連合軍に敗れた(義和団事件)。清は列強の北京駐兵、多額の賠償金の支払いなどを認めた北京議定書に調印し、植民地化はさらに進んだ。義和団鎮圧のため、ロシアは中国東北部(満洲)にも派兵したが、ロシア軍は北京議定書の調印後も駐屯した。

20世紀に入ると、中国や朝鮮半島の利権をめぐって各国の対立はさらに深まった。日本は、南下政策のために満洲から派兵しないロシアが、次は朝鮮半島の確保を狙っていると考え、警戒し、中央アジアでロシアと対立していたイギリスは、南アフリカ戦争と義和団事件の苦戦もあって日本に接近し、1902年、日英同盟が結ばれた。朝鮮半島をめぐって日本とロシアの交渉が断絶されたが、交渉は決裂し、04年に、英露対立の代理戦争ともいえる日露戦争が始まった。日清開戦を

POINT 4

南下政策を進めるロシアとの、朝鮮半島をめぐる交渉が決裂したことで、日露戦争が起きたことがわかります。また、中央アジアでロシアと対立していたイギリスが、日本に接近して日英同盟を結んでおり、日露戦争には英露対立の代理戦争という見方もあることがわかります。

日本の重工業の発展
列強による軍備拡張競争
(5節へ)



●2部と3部の最後に、特設「明解！近現代史」を新設しました。各部を振り返るにあたって特に重要な事項や概念の歴史的経緯を、資料や年表、文章から大観できるようにしています。

POINT 4 学習指導要領で示された5つの観点のうち、このページに該当する観点をアイコンで示しています。

POINT 1 「近代化」の学習内容から、現代を生きる私たちが何を学ぶべきかを考えることを促しています。

POINT 2 上段では、世界の「工業化」に関する資料とフローチャートで、「工業化」とそれに伴う近現代の世界の流れを把握できるようにしています。

POINT 3 産業革命に伴い、資本主義が登場した一方で、児童労働や長時間労働などが社会問題として認識されたことにより、社会主義の思想が登場したことがわかるようにしています。

POINT 6 アジア最大の工業国に成長した日本は、世界恐慌などによる経済不況を乗り越えて経済回復に成功したものの、その過程に関連した動きが、後の戦争にもつながったことがわかるようにしています。

POINT 5 日本の「工業化」の動きは、第一次世界大戦中も続き、ヨーロッパが戦場となったことで重化学工業が成長したこと、また、日本だけでなくアジア諸国も第一次世界大戦中に経済成長したことがわかるようにしています。

▼ p.83-84

明解！ 近現代史

① 産業革命と工業化の広がり

↓ 第1回万国博覧会(ロンドン) 世界各地の産物や最先端の技術が紹介され、そこにはイギリス国内の産業発展を図るねらいもあった。

↑ 1 紡績工場の内部 イギリスの産業革命は紡績業の技術革新から始まり、100年以上かけて進行した。このため、「革命」とよんでよいのか、という議論がある。

↑ 2 第1回万国博覧会(ロンドン) 世界各地の産物や最先端の技術が紹介され、そこにはイギリス国内の産業発展を図るねらいもあった。

↑ 3 「上院の支配者たち」(アメリカの風刺画) アメリカの上院の議員よりも後ろに立つ人々の方が強い力をもっていることを風刺している。

↑ 4 神戸三菱造船所 日本の造船業は急成長し、第一次世界大戦中には、造船量が米英に次いで世界第3位となった。

↑ 5 日本の軽工業・重工業の生産の変化 日本の造船業は急成長し、第一次世界大戦中には、造船量が米英に次いで世界第3位となった。

19世紀
産業革命の開始
繊維工業の技術革新
交通革命
資本主義の成立
社会主義の誕生
西欧諸国に産業革命が波及
工業化・都市化の進展
世界市場の形成
西欧諸国の世界進出
アジア・アフリカの植民地化
イギリスの繁栄

20世紀
重化学工業の発展
独占資本主義の成立
侵略的な領土拡張
日本の産業革命
アメリカ・ドイツの台頭
帝国主義の激化
アジアの工業化と日本の中国進出
1914~18 第一次世界大戦
民族資本の成長
日本の工業の急成長
1929 世界恐慌
日本経済への打撃
1937~ 日中戦争
1941~ 太平洋戦争

● 産業革命の始まり
産業革命は、市民革命をいち早く経験し、植民地獲得競争で勝利していた18世紀のイギリスで始まった。イギリスではインドからもたらされた綿織物が人気を集めており、これを国内生産しようとしたことから、さまざまな発明が生まれた。動力である蒸気機関が登場し、蒸気機関車や蒸気船がつくられるなど、産業革命は人々の生活を大きく変化させ、同時に世界を農業中心から工業中心の社会に変えていった。

● 世界市場の形成
産業革命を経た西欧諸国は、市場と資源を求めて世界各地に進出し、アジアやアフリカに植民地を建設して世界市場に組み入れた。特にイギリスは、「世界の工場」とよばれるほどの工業国となり、世界最大の植民地をもつ帝国となった。植民地化を逃れたアジアの国々も、不平等条約によって国内の伝統産業が衰退するなどの事態に陥り、経済的に欧米諸国へ従属していった。

● 資本主義と社会主義
産業革命に伴って、資本家が労働者を雇い、工場でつくった製品で利潤を得るといった資本主義が登場した。しかし、児童労働や低賃金、長時間労働などが社会問題として認識されるようになり、各地で労働運動が展開した。こうしたなか、生産活動を計画的に共同で行おうとする社会主義の思想も生まれ、この思想は各国に広がり、後のロシア革命に影響を与えた。

● 第2次産業革命と台頭するアメリカ・ドイツ
1870年代になると、重化学工業を中心とする第2次産業革命が始まった。南北戦争を経て工業化が進んだアメリカや、統一を遂げたドイツが最新設備を導入していち早く対応し、工業生産力において、設備投資に遅れたイギリスを上回るようになった。これによりイギリスはしだいに金融業に力を入れるようになった。

● 日本産業革命
開国によって世界市場に組み込まれた日本は、国内の産業を守り、国際競争力をつけることが求められた。日本の工業化は紡績業や製糸業といった軽工業から始まり、インドや中国から綿花を輸入して綿糸や綿布に加工し、中国・朝鮮へ輸出した。日清戦争で賠償金を得ると八幡製鉄所を操業して重工業も発達し、日露戦争後には、幕末に結んだ不平等条約の改正にも成功した。

● 経済不況と中国への進出
こうしたなか、アジア諸国との関係を強めた日本は、欧米諸国と同様、しだいに市場と資源を求めてアジアへの帝国主義の動きを強めていくこととなった。

● 第一次世界大戦とアジアの工業化
産業革命による工業化は人々の生活を豊かにしたが、一方で欧米諸国の対立を激化させ、第一次世界大戦を招いた。ヨーロッパが戦場となったため、大戦中に世界市場で力を伸ばしたのが、アメリカと日本であった。アメリカは連合国へ多くの物資と資金を提供し、金融の中心もイギリスからアメリカへ移動した。日本も船舶や鉄鋼を連合国へ提供し、輸入が止まった化学製品も生産するようになったことで、重化学工業が急成長した。

● 日本産業革命
日本の工業化は江戸時代からの技術力や教育も影響して急速に進められた。また、政府が民間企業と結びつき、支援する形でも進められ、さまざまな分野の企業を経営する実業家も登場して財閥とよばれるようになった。

● 第一次世界大戦とアジアの工業化
産業革命による工業化は人々の生活を豊かにしたが、一方で欧米諸国の対立を激化させ、第一次世界大戦を招いた。ヨーロッパが戦場となったため、大戦中に世界市場で力を伸ばしたのが、アメリカと日本であった。アメリカは連合国へ多くの物資と資金を提供し、金融の中心もイギリスからアメリカへ移動した。日本も船舶や鉄鋼を連合国へ提供し、輸入が止まった化学製品も生産するようになったことで、重化学工業が急成長した。

● 日本産業革命
日本の工業化は江戸時代からの技術力や教育も影響して急速に進められた。また、政府が民間企業と結びつき、支援する形でも進められ、さまざまな分野の企業を経営する実業家も登場して財閥とよばれるようになった。

● 日本産業革命
日本の工業化は江戸時代からの技術力や教育も影響して急速に進められた。また、政府が民間企業と結びつき、支援する形でも進められ、さまざまな分野の企業を経営する実業家も登場して財閥とよばれるようになった。

世界と日本の歴史的なつながり

▶ 世界と日本の相互の関係がとらえられる「生

が見える教科書

活・文化から見る日本と世界」

- **日本と世界の文化的なつながり**を、ビジュアルな資料と文章で紹介しています。
- 生徒の興味を引く豊富な絵画や写真資料で、**生活・文化を視覚的にとらえる**ことができるようにしました。
- 当時の日本の人々の生活・文化が**どのように世界の影響を受け、また、世界にどのような影響を与えたのか**がわかるようにしました。

POINT 1

導入として、当時の日本の人々の生活が具体的にわかる絵画や写真とその解説を掲載しています。

▼ p.67-68



↑ 1871年の神戸港 ① 外国人 和服の日本人と洋服の外国人が混在している。この後、男性は洋装や街の様子が変わっていった。が中心となっていく。 ② 建物 洋風建築の外国領事館が建ち並び、洋風建築は、東京(→p.11)などの都市にも次々とつくられた。 ③ 馬車と人力車 欧米の馬車も日本にもち込まれ、それを日本風に改良した人力車もつくられた。 ④ 船 海上には、日本古来の和船に加え、欧米からやって来た蒸気船が見られる。

生活・文化から見る日本と世界② 明治期

文明開化とジャポニスム

開国後、神戸や横浜などの開港地に外国人居留地ができると、さまざまな分野で欧米文化が流入し、日本人の生活は大きく変化した。一方で、日本の美術も海を渡り、欧米で高い人気を得るようになった。

1 欧米文化で変わる日本の生活

欧米文化の流入で、文明開化(→p.64)とよばれる生活の洋風化が進んだ。衣食住以外にも、欧米の時間制度を導入し、国が定めた同一の時間で生活するようになるなど、生活習慣にも影響が及んだ。また鉄道の敷設や蒸気船航路の開通、郵便制度の整備などにより、国内外から、多くの人や情報が行き交うようになった。



67

↑ 横濱毎日新聞 海外で一般的だった新聞は明治時代に発行が本格化した。当初は政論新聞として自由権運動と共に発展し、近代化を後押しした。

↓ 時間制度の変化

江戸時代	・日の出と日の入りを時間の基準とする(不定時法)
明治時代	・季節や地域で時間が異なる
	・太陽暦(西暦)の採用
	・1日を均等に24時間に分ける(定時法)



↑ 牛鍋を食べる男性 文明開化の下、多くの人々が、それまで食べていなかった牛肉を口に、新聞を読み、髪を結うことをやめてざんざり頭となった。([安藤栄編] 東京大学大学院法政学研究所附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫)

POINT 2

開国により世界の影響を受けて変化した生活の様子がわかるようにしています。

2 欧米の影響を受ける日本の芸術

開国後の日本では、技術や文化以外にも、欧米の芸術の特質や技法が取り入れられた。また、国民意識の高まりも影響して、日本の伝統芸術も見直されるようになり、和洋折衷の新たな芸術が登場した。



↑ 黒田清輝作「遊覧」 パリに留学した黒田は、日本の西洋画に明るい色彩の画風をもたらした。(東京国立博物館蔵 重要文化財 1897年 縦69cm×横84.7cm)

↑ 狩野芳崖作「慈母観音」 芳崖は、フェノロサに勧められ、西洋技法を取り入れた新たな日本画を描いた。



(東京藝術大学蔵 1888年 縦195.8cm×横86.1cm)

未来へ活かす歴史

お雇い外国人が導いた文化財保護

明治政府に招かれたお雇い外国人(→p.73)の一人、フェノロサは、当初大学で政治学や哲学を教えていたが、日本美術にひかれて研究を始め、その振興に携わった。新日本運動を提唱して寺社の宝物を調査し、その保護と欧米への紹介に努めた。法隆寺の秘仏・救世観音を約200年ぶりに開帳させた逸話は有名である。これらの調査は、文化財保護行政を先導し、1897年には古社寺保存法が制定された。これにより、優れた美術品を国宝に指定し、保護の支援がなされるようになった。今日も、1950年に制定された文化財保護法の下、保護活動が続いている。



↑ 岡倉天心 (1862~1913) とフェノロサ (1853~1908) 岡倉はフェノロサの生徒で、共に伝統保存と日本画復興に尽力した。

3 欧米で起こった日本ブーム「ジャポニスム」

幕末のころから、海外との交易(→p.56)や万博(→p.59)を通じて日本の文物が欧米諸国に紹介され、日本ブーム「ジャポニスム」が巻き起こった。扇子や着物、浮世絵などが人気を集め、やがて19世紀後半に登場する「印象派」などに大きな影響を与えた。

↑ ジェームズ・ティン作「日本の品々を眺める娘たち」 (1869年 縦70.5cm×横50.2cm)



↑ ロートレック作「ディヴァン=ジャポネ」 この多色刷りのポスターには、遠近法を無視した色使いや、大胆な構図などに、浮世絵からの影響がみられる。ロートレックらの芸術は「アール=ヌーヴォー」(新しい芸術)とよばれ、従来の様式にとらわれない芸術が目指された。(1893年 縦79cm×横60cm)

アジアに広まる和製漢語

幕末から明治初期の日本では、欧米の書物が大量に翻訳された。しかし、そこに登場する概念は日本語や中国の古典にないものも多く、人々は新たな言葉を創出しながら翻訳を進めた。このように日本で作られた漢字の新語(和製漢語)は、日清・日露戦争期の中国人留学生(→p.79)などにより中国に逆輸入され、朝鮮やベトナムにも広まった。それとともに、江戸時代以前につくられた訓読みの和製漢語も、アジアに広まっていった。

↑ 英語と日本・中国・朝鮮における翻訳語 それぞれ現在使われている表記である。

英語	日本語	中国語	朝鮮語
politics	政治	政治	정치
economy	経済	经济	경제
society	社会	社会	사회
right	権利	权利	권리
civilization	文明	文明	문명
history	歴史	历史	역사

POINT 3

開国後の日本では、欧米の影響が生活だけでなく芸術にも及んだことがわかるようになっています。

POINT 4

日本の文化が世界に影響を与えたことも紹介することで、世界側、日本側の双方の視点から歴史をとらえられるようになっています。

主体的に歴史を考察する力が身につく教科書

▶ アクティブ・ラーニングで思考力・判断力・表現力を育む「歴史に迫る！」

主体的に歴史を考察する力が身につく教科書

▶ アクティブ・ラーニングで思考力・判断力・表現力を育む「歴史に迫る！」

全体構成

特色 ①

特色 ②

特色 ③

見開き構成

単元紹介

QRコンテンツ

関連教材

- ある歴史上の出来事について、それをどのように評価できるかや、そこに至った要因・問題点などを、複数の資料を読み解きながら、当時の状況も踏まえて考察できるようにしています。
- その時代への理解を深めながら、アクティブ・ラーニングを通して思考力・判断力・表現力を養えるようにしています。

【歴史に迫る!】

ページ	タイトル
p.33-34	フランス革命は人権宣言の理念をどこまで実現できたのか
p.57-58	幕府の対外交渉をどう評価するか
p.97-100	二十一か条要求の何を問題とすべきか
p.125-126	チェンバレンの政策をどう評価するか
p.165-168	なぜキューバ危機は回避できたのか NEW

POINT 1

QRコンテンツにワークシートを収録し、特設ページの学習に取り組みやすくしています。

POINT 2

幕府の対外交渉について、歴史家たちの相反する評価を示すことで、多面的・多角的な思考を促すようにしています。

歴史に迫る! 幕府の対外交渉をどう評価するか



POINT 1 ペリーの神奈川(横浜)上陸
1853年、ペリーが軍艦4隻を率いて浦賀沖に現れた。鎖国のさなかであった日本は、この黒船来航をきっかけに、1854年に日米和親条約、1858年に日米修好通商条約を結んで、開国に踏み切った(→p.56)。しかし、この二つの条約には不平等な内容があり、その改正は日本の大きな目標となっていた。

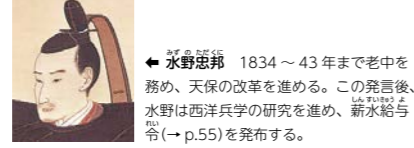
POINT 2 歴史家たちは、幕府が行った交渉について、主に以下のような評価を下している。あなたはどちらだと考えるだろうか。

POINT 3 歴史家たちの評価

評価 1	評価 2
日本はこの不平等条約の内容に苦しんだ。幕府の交渉は失敗である。	当時の状況下で最大限の努力をし、結果的に日本は植民地化をまぬがれた。交渉は失敗とはいえない。

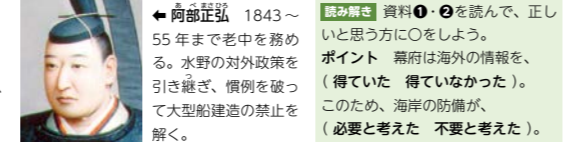
検証 A 幕府側の考え

資料 ① 水野忠邦が得ていたアヘン戦争情報
清国がアヘンの取り引きを厳禁にしたことにより、イギリス人は不平を抱き、軍艦40隻余りを寧波に向かわせ、戦争を開始。寧波の一部が奪いとられたとこのことを茶船者より聞いた。異国のことだが、これは自国の戒めにするべきである。浦賀の防衛についての建議が未定になっているが、行き届いていない。
(1841年1月 佐渡奉行への手紙より現代語訳)



資料 ② 向部正弘の諸大名への説明

つまりは和戦の二字に帰着した。…近海をはじめ防衛は方全ではない。彼ら(アメリカ)が…来年渡来しても要望の許否は明言せず、なるべく平穩に取り計らうつもりである。しかし彼らが乱暴に及ばないとも限らない。その時になって覚悟がなくては鎖国等ものになるだろう。…万が一戦いになった場合には、…心力を尽くし忠勤に励むべしとの将軍のおおせである。
(1853年11月1日「幕末外国関係文書之三」より現代語訳)



検証 B 日米和親条約の内容

資料 ③ 日米和親条約 (1854年) → ペリー

第2条 伊豆の下田、松前の箱館(函館)の両港は、アメリカ船が薪・食料・石炭など欠乏している品を日本で調達するために限って渡来することを、日本政府は許可する。

第3条 アメリカ船が日本沿岸に漂着したときは救助し、漂流民を下田または箱館に護送し、アメリカ人が受けとれるようにする。

第9条 日本政府は、現在アメリカ人に許可していないことをほかの外国人に許可するときは、アメリカ人にも同様に許可する。

第11条 両国政府は、やむをえない場合には、合衆国の領事を下田に駐留させることがある。もっともそれは条約調印から18か月後までなくてはならない。

補足 ① 第2条により、下田・箱館(函館)の開港が認められたが、漂流民の保護、薪水・食料・石炭の供給に限定したもので、従来の薪水給与と変わらなかった。

補足 ② 第9条は、片務的最恵国待遇の承認であり、欧米諸国では双務的に結ぶことが一般的になっていたことから、不平等な内容となっていた。

補足 ③ 第11条における領事の駐留については、日本語文では双方が、英語文は一方が必要とした場合となっており、結果的に領事が下田に置かれることとなった。

読み解き 資料③において問題となる条文はあるだろうか。また評価すべき条文はあるだろうか。

検証 C ハリスとのやり取り

資料 ④ アメリカ総領事ハリスの演説 (1857年)

①アメリカは日本を親友と見ており、かつ、アメリカは戦争で領土を獲得したことはない。

②西洋各国は貿易を盛んに行っており、アメリカの希望は外交官の江戸への駐留と自由貿易である。

③アロー戦争が終盤になり、イギリス・フランスの脅威が迫っており、アヘン貿易による害悪も危ぶまれる。

④アメリカとの条約があれば、欧州諸国との確執が起こった際、アメリカ大統領が仲立ちをする。



積極開国派の意見 神奈川・横浜を開港し、欧米諸国からさまざまなことを吸収して、幕府の富国強兵を成し遂げるべき。

消極開国派の意見 「アメリカは非侵略国」と言っているが、風説書によれば事実ではない。また、アヘンを中国に輸出している事実もある。拒絶すれば戦争になるので、当分は極端な処置で対応すべき。

読み解き 資料④を踏まえ、ハリスの演説は幕府にどのような影響を与えたと考えられるだろうか。

検証 D 日米修好通商条約の内容

資料 ⑤ 日米修好通商条約 (1858年)

第3条 下田・箱館港のほか、神奈川と長崎、新潟、兵庫を開港する。神奈川開港の6か月後に下田は閉鎖する。

第4条 日本に対する輸出入の商品には、別記のとおり日本政府へ関税を納めること。…アヘンの輸入は禁止する。

第6条 日本人に対して法を犯したアメリカ人は、アメリカ領事裁判所で調べたうえ、アメリカの法律で罰する。アメリカ人に対して法を犯した日本人は、日本の役人が調べたうえ、日本の法律で罰する。

第7条 開港場においてアメリカ人の歩ける範囲は…神奈川、六郷川筋を境界とし、そのほかは各方面10里とする。

補足 ① 第4条により、関税自主権を失ったが、1866年の改正までは、日本に有利な税率となっていた。商品別に値段が重さかで税率が定められたが、後の貿易の急増で、重さによる税率の方が対応しきれなくなった。アヘンの禁止も重要であった。

補足 ② 第6条は領事裁判権についてで、当時の日本の刑罰は欧米に比べてかなり重く、このままでは欧米からの大幅な干渉が予想されたため、幕府側もこの形を望んだ。

補足 ③ 第7条で外国人の歩ける範囲を決めたことにより、外国人商人は居留地以外での商売ができず、日本の国内市場を守ることにもつなげた。

読み解き 資料⑤において問題となる条文はあるだろうか。また評価すべき条文はあるだろうか。

最終課題

質問 1 あなたが資料③・④の条約のなかで「評価 1 の根拠になる」と考える条文はどれか。

質問 2 あなたが資料③・④の条約のなかで「評価 2 の根拠になる」と考える条文はどれか。

質問 3 あなたはこの幕府の対外交渉をどう評価するか、学習課題での考えを再検証しよう。評価 1 と評価 2 の根拠となる条文もそれぞれ触れて、あなたの考えを説明しよう。また、グループになり、考えを発表し合い、どのような意見の相違があるか議論しよう。



- 身近な「もの」や「出来事」、「概念」といったテーマに関するレポートと生徒の会話文を通じて、時代を考察できるようにしました。
- 多くの資料と解説にふれることで、資料を読み解く力を養えるようにしています。
- 2～4部の振り返りページ（→本資料p.26-27）で、「現代的な諸課題」について調べる際の参考にもなるようにしています。

【探究レポート】

ページ	タイトル	観点	ページ	タイトル	観点
p.27	綿織物の普及と経済的支配	平等と格差	p.119	大衆社会のなかの災害	統合と分化
p.41	国民国家の形成と学校教育	平等と格差/統合と分化	p.131	植民地での搾取を促したゴム	自由と制限/平等と格差
p.59	国家の威信を示した博覧会	対立と協調	p.175	人類を脅かす核兵器	開発と保全
p.69	近代国家が求めた地図	統合と分化/開発と保全	p.187	世界の一体化と感染症	開発と保全
p.107	社会の変化と女性のファッション	自由と制限/平等と格差			

POINT 2

学習指導要領で示された5つの観点のうち、このページに該当する観点をアイコンで示しています。

POINT 1

レポートで紹介している事例は、本編の学習とも関連させており、該当する部分にはリンク先のページを記載しています。

探究レポート4 統合と分化 開発と保全

近代国家が求めた地図

1901年11月2日(左)と11月3日(右)の新聞記事(日本)

昔の新聞記事を見つけたよ。新聞紙名の背景にある地図には、11月3日の記事だけ台湾が描かれているね。どのような意図でこの地図は変更されたのかな。地図の役割について調べてみたよ。

日本地図の変化

1744年にヨーロッパでつくられた日本周辺の地図。右下に日本が描かれ、北海道が樺太や大陸とつながる形になっている。

シーボルトの日本地図 1832年からオランダ商館医のシーボルトが順次刊行した日本の解説書に、伊能図をもとにした地図が掲載された。(福岡県立図書館デジタルライブラリ)

図2の地図はまだ十分な調査が行われておらず不正確だが、図3の地図は、図2と比べて正確になっている。

日本近海に外国船が進出した危機感(→p.53)から江戸幕府が探検隊を派遣し、北方の調査を行った。また、海岸の防備を整えるために、幕府は日本列島の正確な地図を求め、伊能忠敬らにより「大日本沿海輿地全図」(伊能図)がつけられた。

近代国家がつけられるなかで、地図は経路や地形を確認する以外の役割も担っていたんだね。

図4のイギリスの地図に描かれているアメリカ先住民やアポロジニが、この地図を見たらどう思うかについても気になったな。

日本の領土として描かれた北海道や樺太には、アイヌ民族が住んでいたよ(→p.66)。日本の地図にもイギリスと同じことがいえるかもしれないね。

地図に描かれることで、知らない間に住む権利が奪われてしまっている場合もあるんだね。新聞記事の地図に描かれていた台湾についても調べてみたいな。

考えよう 下線句の意見について、レポートでは地図のどのような役割が挙げられているか、具体的な例を挙げて説明しよう。

探究レポート5 自由と制限 平等と格差

社会の変化と女性のファッション

現代でも、ファッションの流行は目まぐるしく変わっているね。ファッションの気遣いは、時代や社会の変化をどのように映すのだろうか。20世紀前半の女性の服装に着目して調べてみたよ。

第一次世界大戦後の女性

第一次世界大戦(→p.94)中、兵士として召集された男性に代わり、女性が軍隊の補助員、工場労働者やバスなどの運転手、電線技師などの仕事に就いた。

戦後、ほとんどの職場において、戦時動員された女性労働者は復員した男性に仕事を明け渡した。一方、「女性ならではの感性」が活かされるとみなされた、タイピスト、事務系職員、店員、電話交換手などの「女の仕事」に就く若年女性は急増した。このような女性労働者は賃金が安く、また結婚すれば退職するのが普通であった(→p.150)。

女性による働きやすい環境への要求は、女性の衣服を変える大きな力となったばかりでなく、女性の社会的地位の向上を目指すことにもつながった。

新しい女像とファッション

戦間期には、母でも妻でもない、自立した未婚女性という「新しい女」のイメージが生まれた。

1920年代のアメリカでは、「フラッパー」とよばれる若い女性がマスメディアに頻りに取り上げられた。彼女らは、短髪や丈の短いスカート姿でダンスホールなどに通い、自由な恋愛を楽しみ、流行に敏感な存在であるというイメージでメディアに取り上げられた。このような女性のスタイルは1930年代には「モダンガール」とよばれ世界各地の都市で流行した(→p.118)。

保守的な人々の間では、「モダンガール」は既存の社会規範を否定するものとして批判された。また、同時代の女性参政権活動家などからも、「目先の大量消費に興じて政治に無関心である」と批判されることもあった。

同じころ、ココ・シャネルは、それまでの身体を締めつける動きにくい服に替わり、「シンプルで着ごちがよく、無駄のないこと」をコンセプトに、1920年代の「シャネル=スーツ」など数々の革新的デザインを生み出した。

現代の日本では、ジェンダーレス制服など、性別による服装の固定化をなくそうとする取り組みも行われるようになった。

チャールストンを踊る「フラッパ」(1923年) シャネル=スーツを着たコパー(1928年)

図1～図3のようなファッションの大きな変化は、社会進出が進んだ女性が解放されて、より自由になったことを示しているんだね。

そう言い切れるのかな。確かに女性の存在感は高まっていたけれど、「職業婦人」となったのは都市の未婚女性だけで、賃金も低かったみたい。女性の幸せは結婚という価値観も変わらなかったんじゃないかな。

調べていて図4を見つけたよ。けれど、雑誌に載っているライフスタイルは大衆の気を引くための広告で、実際の生活を表しているとは限らないのかも。

イギリスの女性向け書籍の表紙(1929年) この時代、ウェディングドレス姿の女性が表紙を飾ることが多かった。

ところで、どの資料にも若い白人女性しか写っていないね。たとえば、アメリカの黒人や、南欧・東欧系移民の女性はどんな服装をしていたんだろう。同時代の資料を調べてみたいな。

考えよう 下線句に対し、あなたならどの程度賛同するだろうか。あなたの意見とその根拠を説明しよう。

POINT 3

会話形式の文章と資料から考察する問いにすることで、大学入学共通テストの出題形式の対策にもなるようにしています。

主体的に歴史を考察する力が身につく教科書

身につく教科書

▶ 多面的・多角的な視点が身につく3つのコラム

ム

歴史の選択肢

- 学習している時代に国内外で議論となった歴史上の出来事を取り上げ、**当時の人々の意見と選択を考察**できるようにしています。
- 当時の人々の立場を踏まえて考察することで、**思考力・判断力を養う**ことができます。

POINT 2

幕府はオランダや中国との貿易を通じて、フランス革命などの世界情勢を把握していたことがわかります。

1794年のオランダ風説書に、フランス革命の情報が初めて記述されている。しかし、当時はヨーロッパ内も混乱していたため、日本へ伝わるのは革命から5年後となった。なお図6は唯一の現物である97年の風説書だが、ほぼ同様の内容が書かれている。また、日本に新たに伝わった「革命」という言葉の訳は難しく、さらに風説書ではオランダ側にとって不利な情報が省かれていた。そのため幕府は、中国との貿易(→p.19)や漂流民、輸入された地理書などから得た情報を、オランダの提供した情報と照合し、当時の世界情勢を確認した。

▶ **オランダ風説書**(重要文化財 江戸幕府博物館)

▲ p.32

POINT 1

「考えよう」では、着眼点を提示し、多面的・多角的な視点で考察することを促しています。

POINT 2

幕府はオランダや中国との貿易を通じて、フランス革命などの世界情勢を把握していたことがわかります。

1794年のオランダ風説書に、フランス革命の情報が初めて記述されている。しかし、当時はヨーロッパ内も混乱していたため、日本へ伝わるのは革命から5年後となった。なお図6は唯一の現物である97年の風説書だが、ほぼ同様の内容が書かれている。また、日本に新たに伝わった「革命」という言葉の訳は難しく、さらに風説書ではオランダ側にとって不利な情報が省かれていた。そのため幕府は、中国との貿易(→p.19)や漂流民、輸入された地理書などから得た情報を、オランダの提供した情報と照合し、当時の世界情勢を確認した。

▶ **オランダ風説書**(重要文化財 江戸幕府博物館)

▲ p.32

世界の中の日本

- 当時の日本がどのように世界と結びついていたのかについて、わかるようにしています。

POINT 2

幕府はオランダや中国との貿易を通じて、フランス革命などの世界情勢を把握していたことがわかります。

1794年のオランダ風説書に、フランス革命の情報が初めて記述されている。しかし、当時はヨーロッパ内も混乱していたため、日本へ伝わるのは革命から5年後となった。なお図6は唯一の現物である97年の風説書だが、ほぼ同様の内容が書かれている。また、日本に新たに伝わった「革命」という言葉の訳は難しく、さらに風説書ではオランダ側にとって不利な情報が省かれていた。そのため幕府は、中国との貿易(→p.19)や漂流民、輸入された地理書などから得た情報を、オランダの提供した情報と照合し、当時の世界情勢を確認した。

▶ **オランダ風説書**(重要文化財 江戸幕府博物館)

▲ p.32

世界の中の日本

オランダ風説書に記されたフランス革命

1794年のオランダ風説書に、フランス革命の情報が初めて記述されている。しかし、当時はヨーロッパ内も混乱していたため、日本へ伝わるのは革命から5年後となった。なお図6は唯一の現物である97年の風説書だが、ほぼ同様の内容が書かれている。また、日本に新たに伝わった「革命」という言葉の訳は難しく、さらに風説書ではオランダ側にとって不利な情報が省かれていた。そのため幕府は、中国との貿易(→p.19)や漂流民、輸入された地理書などから得た情報を、オランダの提供した情報と照合し、当時の世界情勢を確認した。

▶ **オランダ風説書**(重要文化財 江戸幕府博物館)

▲ p.32

世界に広がる日本のポップカルチャー

アニメ、漫画、ゲーム、ライトノベルをはじめとする日本発のポップカルチャーは、海外の若い世代を中心に人気を集めている。アニメや漫画は多くの言語に翻訳され、ゲームも言語を選ばず遊べるようになっている。これらに触れることで、日本に興味や親近感を抱き、観光や留学にやってくる外国人も多い。ポップカルチャーは、伝統文化と並んで日本を代表する文化の一つとなっている。

▶ **海外コスプレイヤー**(2024年、ロシア)

▲ p.174

未来へ活かす歴史

- これからの未来を考えるうえで、参考にしてほしい事項について紹介しています。
- 学習指導要領で示されている、「自由と制限」「平等と格差」「開発と保全」「統合と分化」「対立と協調」の観点を踏まえて取り上げています。

POINT 3

「現代的な諸課題」に関連する歴史的な事象を紹介し、歴史を学ぶ意義を感じられるようにしています。

お雇い外国人が導いた文化財保護(→p.68)

犠牲を伴ったトルコ共和国の建国(→p.106)

地域紛争の調停に成功したASEAN(→p.184)

……………など全49テーマ

未来へ活かす歴史

ヴィクトリア時代の女性たち

この時代のイギリスでは、社会の流動化に伴い中流階級が台頭してくるようになった。労働階級の女性は従来通り資金労働に従事し家事を補い、一方で中流階級の女性は資金労働に従事せず、妻や母として家庭を守り、余暇は趣味や慈善活動の時間にあてることが理想とされた。しかし、男性の競争心や、海外軍役に就いたり植民地に赴いたりする男性の増加などにより、独身で無職の女性が増えたことで、そのような理想の実現は難しくなり、男性との格差は拡大した。このような状況から、女性への高等専門教育や女性参政権などを要求する運動が活発になっていった。

▶ **ヴィクトリア女王**(1819～1901)「パクス・ブリタニカ(イギリスの平和)」とよばれたイギリス最盛期に君臨し、在位期間は60年以上に及んだ。夫アルバートとの後継的な家庭生活は、中産階級の理想の家族像となった。

▲ p.46

未来へ活かす歴史

黒人差別の撤廃を目指して

アメリカでは、第二次世界大戦後も黒人の子供が白人と同じ教室で授業を受けられず、バスでも乗車拒否や黒人専用席を設けられるなど、人種隔離の差別が続いた。1955年に黒人女性のローザ・パークスがバスのなかで白人に席を譲ることを拒否して逮捕された。これに反対して始まったバスのボイコット運動のなかで、キング牧師は、1963年8月28日、キング牧師らは、政府に対して、人種差別撤廃を掲げる公民権法成立を後押しするため、ワシントンに向けて大行進を行った。リンカン記念堂には25万人の賛同者が集まった。2009年にはオバマがアフリカ系として初のアメリカ大統領に就任した。しかし、人種差別はまだ根絶されておらず、2010年代以降のブラック・ライブズ・マター運動のように、人種差別の撤廃を求める運動は続いている。

▶ **ワシントン大行進でのキング牧師の演説**

私は夢があるのです。それは、いつの日か、ジョージア州の赤土の丘で、かつての奴隷の息子たちとかつての奴隷所有者の息子たちが、同じテーブルに高くという夢なのです。

▶ **リンカン記念堂前の広場に集まる人々とキング牧師**(1963年8月)

▲ p.178

【歴史の選択肢】

ページ	タイトル
p.56	受け入れか拒絶か 海外対応をめぐる論争
p.78	日露戦争に関するさまざまな意見
p.104	中国の民族自決をめぐる意見
p.116	男子普通選挙をめぐる意見
p.122	世界革命論か一国社会主義論か
p.128	中国大陸進出に対する日本国内の反応
p.148	全面講和と多数講和
p.162	旧安保条約の課題と改定をめぐる論争
p.180	沖縄の本土復帰は達成したか —沖縄の基地問題から「沖縄の本土復帰」を考える

▶ 学習の流れを把握して見通しを立てられる

「章扉」

●各章のはじめには「章扉」を設置して、章のタイトルや章の学習課題、章の学習に関連する資料を確認することで、各章の流れや押さえるべきポイントが把握できるようにしました。

▼ p.42

4章 産業革命による欧米とアジアの変化

1 イギリスの紅茶メーカープトンの広告(1896年)

2 フェアトレード承認商品
フェアトレードは、「公平・公正な貿易」と訳される。発展途上国の原料や製品を適正価格で継続的に購入することで、途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す取り組みとして行われている。

4章の学習内容と現在のつながり
現在、私たちは、世界各地で生産された紅茶や砂糖、コーヒーなどを安価な値段で楽しむことができる。一方で、生産国と販売している企業の国が異なるのはなぜだろうか。
2部4章では、19世紀の欧米諸国とアジアの動きについて学んでいく。産業革命を経た欧米諸国の進出に対し、アジア諸国はどのように対応していったのか、その様子に注目して学んでいこう。

章の学習課題 ▶ 欧米諸国の産業革命と世界進出は、世界の国々にどのような影響をもたらしたのだろうか。

節の学習課題

- 1節 産業革命によって発生した社会の変化は、世界の歴史に何をもちたのだろうか。
- 2節 世界市場の形成によって、各地域の経済はどのように変化したのだろうか。
- 3節 アメリカ合衆国の統一と工業化は、世界の動きとどのように結びついていたのだろうか。
- 4節 ヨーロッパ諸国の進出によって、西アジアの社会はどのように変化したのだろうか。
- 5節 ヨーロッパ諸国の進出によって、南・東南アジアの社会はどのように変化したのだろうか。
- 6節 清は、ヨーロッパ諸国の進出に対してどのように対応したのだろうか。
- 7節 日本は、欧米諸国の進出に対してどのように対応したのだろうか。

西洋の衝撃

産業革命を経験した欧米諸国の進出は、アジア諸国にどのような成果と課題を生み出したか、あなたの考えを説明しよう。

POINT 1

QRコンテンツにはワークシートを収録し、生徒が章のはじめに立てた学習課題に対する仮説を、章の終わりで検証できるようにしています。また、先生方が生徒の「主体的に学習に取り組む態度」を評価しやすいようにしています。章を振り返る際には、部の見通しを立てた問いを見直す活動ができるようにしています。

学習の見直し・振り返りシート

2部4章 産業革命による欧米とアジアの変化

名前: _____

【問いの確認】
「近代化」を学習する際になら「あなたの問い」を書き出そう。もし、前章の学習でリライト（書き直し）した問いがあれば、そちらを書き出そう。
この章を学習するにあたっての「あなたの問い」:

【章の学習課題】
2部4章の学習課題：産業革命と世界進出は、世界の国々にどのような影響をもたらしたのだろうか。
部の見通しに対するあなたの予想:

【節の学習課題】
各節を学習した後に、節の学習課題に対する回答を書き出そう。

1 産業革命で変わる社会 学習課題：産業革命によって発生した社会の変化は、世界の歴史に何をもちたのだろうか。 解答:	2 イギリスの繁栄と国際分業体制 学習課題：ヨーロッパ諸国の進出によって、各地域の経済はどのように変化したのだろうか。 解答:
3 アメリカの拡大と科学技術の発展 学習課題：アメリカ合衆国の統一と工業化は、世界の動きとどのように結びついていたのだろうか。 解答:	4 「西洋の衝撃」と西アジアの変化 学習課題：ヨーロッパ諸国の進出によって、西アジアの社会はどのように変化したのだろうか。 解答:

5 南・東南アジアの植民地化 学習課題：ヨーロッパ諸国の進出によって、南・東南アジアの社会はどのように変化したのだろうか。 解答:	6 3-ロウの日本近代とアヘン戦争 学習課題：清は、ヨーロッパ諸国の進出に対してどのように対応したのだろうか。 解答:
7 高橋の来航と日本の対外 学習課題：日本は、欧米諸国の進出に対してどのように対応したのだろうか。 解答:	

【章の振り返り】
2部4章の振り返り：産業革命を経験した欧米諸国の進出は、アジア諸国にどのような成果と課題を生み出したか、あなたの考えを説明しよう。
部の見直しに対するあなたの考え:

★ステップアップ課題
(1) この章を学習して、p.13にある「近代化」後考える6つのキーワードのうち、新たな発見を1つし、理解を深めたいキーワードが2つにチェックしよう。また、この章を学習して新たに気づいた点や疑問に思った点があれば書き出そう。
6つのキーワード:
 交通と交易 産業と人口 権利意識と政治参加や市民の義務
 学校教育 労働と家族 移民

気づいた点や新たな疑問:

(2) このワークシートの質問に書き出した「あなたの問い」と、(1)で浮かんだ疑問とを結び合わせて、次の章に進むための「あなたの問い」をリライト（書き直し）しよう。リライトせずにそのままの問いで次の章に進む場合も、下の欄に書き出して問いを確認しよう。
次の章に進むための「あなたの問い」:

POINT 2

導入資料に関連する現在の写真を掲載することで、生徒が学習内容と現在のつながりを感じられるようにしています。

POINT 3

章の学習内容と現在のつながりについて確認することで、生徒が歴史を学ぶ意義に気づいたうえで学習に入れるようにしています。

POINT 4

章の問いと節の問いの関連性を示しています。章の構成を構造図にすることで、生徒が章の学習の全体像を把握しやすくするとともに、学習の進度を調整しやすくしています。

POINT 5

「章の振り返り」では、「あなたの考え」を問うものにするので、生徒がみずからの考えを表現できるようにしています。

学習課題に関連の深い資料を大きく掲載して、資料を読み解く活動を導入としています。

●ワイドなAB判の判型を生かし、写真や風刺画、文章資料などを豊富に掲載しています。学習の導入で資料の読み解きを行うことで、学習テーマが明確になるようにしました。

学習課題 各見開きにおける学習課題を示しています。見開き右下の「説明」と対応しています。



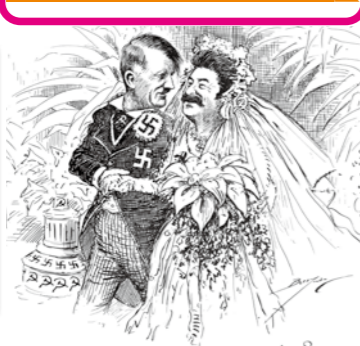
↑1 パリに入城するドイツ軍騎兵 (1940年6月) 第二次世界大戦が始まると、ドイツは後に「電撃戦」とよばれる短期戦の連続で、次々に占領地域を増やしていった。



↑2 第二次世界大戦中のヨーロッパ 軸枢国側の勢力の範囲は、どのように変化していったのだろうか。

1 第二次世界大戦の始まりと拡大

前の出来事 日本 ▶ p.129、ヨーロッパ ▶ p.123、アメリカ ▶ p.121 日本・ヨーロッパ・アメリカ ▶ p.135 次の出来事



↑3 独ソ不可侵条約の風刺画 (アメリカ) 読み解き この絵は、独ソ不可侵条約をどのようにみなしているだろうか。



↑4 ポーランド侵襲時に抵抗し、降伏・処刑された人々の手形をモチーフとした追悼の壁 (ポーランド グダンスク)

ヨーロッパの動向 東欧への侵攻を進め、チェコスロヴァキアを解体したドイツは、イギリス・フランスに不信感をもつソ連と独ソ不可侵条約を結び、1939年9月、ポーランドに侵襲した。これに対してイギリス・フランスがドイツに宣戦布告して、第二次世界大戦が始まった。ソ連もポーランドに攻め込み、ドイツと領土を分割した。

40年になると、ドイツはフランスのパリをも占領した。降伏したフランスでは中部のヴィシーにおいてドイツに協力的な政府(ヴィシー政府)が樹立するなど、ファシズムはヨーロッパで勢力を拡大した。こうした動きに対し、ドゴールは亡命先のロンドンからフランス国民にレジスタンス(抵抗運動)を呼びかけた。イギリスも、チャーチル首相の下で、連日の激しいロンドン空襲に耐えてドイツ軍の本土上陸をはばんだ。

日独伊三国同盟の締結 イタリアが1940年にドイツ側で参戦し、フランスがドイツに屈すると、日本ではドイツとの提携を強化する機運が高まった。そして、同年9月に日独伊三国同盟が結ばれ、軸枢国陣営が形成された。ドイツはユーゴスラヴィア・ギリシアの制圧後、41年6月、不可侵条約を破って、ソ連への侵襲を開始した(独ソ戦)。ナチ党の人種主義に立つドイツの占領政策は、東欧やソ連領内で過酷を極め、ユダヤ人迫害も強制移送や収容所での強制労働から大量殺りくへとエスカレートした。しかしソ連はドイツに屈せず、イギリスとアメリカがそれを

前の出来事 次の出来事 開いているページの、前後の出来事を扱っているページを紹介しています。

地域インデックス 各見開きで扱っている地域が一目でわかるインデックスを設けています。

133 中学校との関連

中学校との関連 中学校で学習した用語を紹介しています。

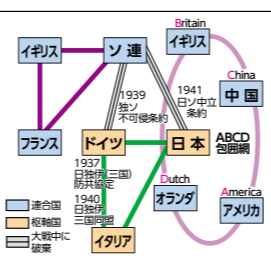
本文行間に設置されたマーク 本文に関連する図やコラム、ページ、QRコンテンツなどを紹介しています。

学びの流れ



▼ p.133-134

- 史料 大西洋憲章 (1941年8月) 1. アメリカとイギリスの領土その他の拡大の否定 2. 両国の領土の変更における関係する人民の意思の尊重 3. 人民が自国の政府の体制を選択する権利の尊重 4. 自由貿易体制の拡大 5. 経済分野における国家間の協力への展望 6. すべての人を恐怖と欠乏から解放する平和の確立 7. 平和確立のための航行の自由の必要性 8. 恒久的な安全保障制度の確立



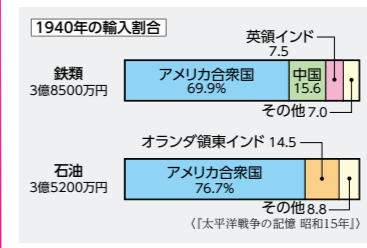
第二次世界大戦時の国際関係 日・独・伊の三国は、英・仏・米が多くの従属地域をもっていることに不満を抱き、「もたざる国」と称して提携を強めた。この枢軸国に対して、英・仏とその同盟国を連合国とよぶ。



強制収容所の部屋でひしめき合うユダヤ人女性 未来へ活かす歴史 ホロコーストの悲劇 ホロコースト(近年は「ショア」ともよばれる)とは、ナチ党の支配したドイツにより500~600万人のユダヤ人が殺害されたことを指す。ユダヤ人という理由だけで彼らは捕まり、アウシュビッツ収容所だけでも100万人以上が殺された。犠牲者はユダヤ人だけでなく、ポーランド人・ロマ人・ソ連軍捕虜などにも及んだ。この歴史を記憶に刻むための活動の一つに、犠牲者が住んでいた場所で「つまずきの石」というプレートを残していく運動がドイツなどで進められている。

読み解き 資料を読み解く視点を紹介しています。

見開き右端の印 巻末3の日本の歴史年表に対応しています。印が示す年代が、その見開きで扱っている時代です。



日本の資源の輸入先 日本の資源輸入先としてのアメリカは、このように存在であったのだろうか。

史料 覚書(ハル=ノート)の主な内容 (1941年11月26日) ・日本軍の仏領インドシナおよび中国全土からの無条件撤収 ・重慶国民政府以外の中国の政権の否認(満洲国、汪兆銘政権の否認) ・中国での治外法権の撤廃 ・日独伊三国同盟の実質的廃棄

確認 不可侵条約を結んだドイツの目的とソ連の考えを、それぞれ本文から書き出そう。

説明 なぜ、日本は中国とだけではなく、アメリカとの戦争に至ったのか、説明しよう。

説明 学習課題に対応した問いを示しています。見開きで学習した知識を活用しながら、思考力・判断力・表現力を用いて説明することを促しています。

単元のポイント

2部「近代化と私たち」では、欧米で「国民国家」が生まれ「工業化」が進み、近代化に向かう様子や、それらがアジアや日本にも波及していったことが、因果関係とともに理解できるようにしました。また、日本・アジア・欧米諸国の動きが互いに関わり合っていたことを、時系列で学習できるようにしています。

POINT 1

フランスの「二月革命」を象徴する絵画を導入資料とし、その読み解きを行うことで、1848年頃のヨーロッパへの関心が高まるようにしています。

POINT 2

国民国家やナショナリズムなど、時代を理解するうえで重要な用語については、本文で定義を明確にするほか、側注でも補足しています。

▼ p.37-38




POINT 1 フランスの「二月革命」を象徴する絵画を導入資料とし、その読み解きを行うことで、1848年頃のヨーロッパへの関心が高まるようにしています。

POINT 2 国民国家やナショナリズムなど、時代を理解するうえで重要な用語については、本文で定義を明確にするほか、側注でも補足しています。

POINT 3 国民国家が形成されたことにより起こった民族問題を取り上げています。学習内容と「現代的な諸課題」との関連を意識して学習できるようにしています。

POINT 4 世界史が中心となるページでも、本文やコラムで日本とのつながりを紹介することで、世界と日本が相互に関連していることがわかるようにしています。

4 1848年～近代ヨーロッパの転換点

前の出来事 ヨーロッパ p.35
ヨロッパ p.39 次の出来事

① 英語では民族・国民・国家、どれも「nation」であり、どの意味に重点が置かれるかは状況によって異なる。チェコ・ハンガリー・ポーランドなど他民族に支配されている地域では民族主義に、他方ドイツやイタリアでは統一国家を実現することに重点が置かれた。



↑ フランクフルト国民議会 フランクフルト国民議会では、統一の中心をオーストリアとする大ドイツ主義と、プロイセンとする小ドイツ主義が対立し、統一はならなかった(→p.39)。

ウィーン体制の崩壊 ウィーン会議後、フランスでは王政が復活し、貴族や教会を優遇するなどだに反動化して議会对立した。1830年7月、民衆蜂起により国王が追放され(七月革命)、自由主義的なルイ・フィリップが新国王として迎えられた(七月王政)。制限選挙制が引き継がれ、産業革命が本格化するなかで、富裕な商人や金業者が政治的発言力を強めた。これに対し市民や労働者による男子普通選挙の実施と議会の改革を求める運動が広がり、48年2月、共和主義者と社会主義者の連合によって革命が勃発し(二月革命)、第二共和政が成立した。

二月革命は、ドイツ・オーストリアにも波及した。プロイセン国王に憲法制定を迫った(三月革命)。これによりウィーン体制は崩壊し、ハンガリーの独立運動やイタリアの統一運動など、各地の自由主義・民族主義運動が高まるなか、フランクフルト国民議会が開かれ、ドイツの統一と憲法制定について議論された。

19世紀の節目と 1848年 1848年は、近代ヨーロッパの転換点となった。産業革命の後発となった国々でも資本主義が確立・展開し、これに伴って労働運動、社会主義運動が各国で強まった。これらの運動との対立関係から、それまで市民革命を主導してきた資本家は、貴族など旧支配層と結んで国家と産業の発展を目指すように変わっていった。ま

37 中学校との関連 江戸幕府、徳川慶喜

未来へ活かす歴史

国民国家形成の陰で ドイツ統一からはじき出されたオーストリアは、ハンガリー人(マジャール人)に自治を認める妥協をして、オーストリア-ハンガリー(二重)帝国を成立させた(→p.39)。この妥協は、支配民族であるドイツ人と非スラヴ系のハンガリー人のバランスの下で帝国内のスラヴ系諸民族を支配するものだった。法律上、国内の諸民族は平等とされたが、その実現は容易ではなかった。帝国の崩壊後、スラヴ系諸民族はみずからの国民国家を建国したが(→p.102)、そこには多くの少数民族が含まれ、後に激しい民族問題を引き起こした(→p.190)。



↑ バルカン半島の民族分布

未来へ活かす歴史

国民国家形成と反ユダヤ主義 ナショナリズムの高まりは排外主義をも引き起こした。各地で法的平等を獲得していったヨーロッパのユダヤ人に対し、19世紀末になると、彼らは異なる人種であり、国民国家の一員であるべきではないと考える人種的反ユダヤ主義が生じた。例えば、ユダヤ人の社会への同化が進んでいたフランスでは、ユダヤ系将校ドレフュスに対する冤罪事件が起こった(1894年)。この事件をきっかけに、ユダヤ人国家建設を目指すシオニズム運動(→p.171)が始まっていった。



↑ 官位を剥奪された軍刀を折られるドレフュス

世界のなかの日本

ナポレオン3世と江戸幕府 積極的な対外政策によって民衆の支持を得ようとするナポレオン3世は、貿易拠点の確保のため、幕末期の江戸幕府にも接近した。幕府に対して、軍事顧問の派遣(→p.61)のほか、横須賀製鉄所設立の支援などを行った。しかし、ヨーロッパ情勢への対応などから日本への介入の余地がなくなり、戊辰戦争では他国と共に中立策をとった。



↑ ナポレオン3世から贈られた軍服を着る徳川慶喜

確認 ナショナリズムについての説明を、本文から書き出そう。
説明 1848年を境にヨーロッパでどのような変化が生じたか、説明しよう。

38

授業展開例

導入

5 min

導入の資料1を提示して、「読み解き」の「行進している人々が掲げているのは、どの国の国旗だろうか。また、なぜこれらの国々の国旗が掲げられているのだろうか。」を予想させる。「1848年を境に、ヨーロッパはどのような社会に変化していったのだろうか」を学習することを予告する。

展開1

10 min

教科書に沿って、ウィーン体制の崩壊の経緯を確認させる。資料2「二月革命の広まり」を用いながら、フランスで起きた革命が、ヨーロッパ各地にどのような影響を与えたのかを押さえる。改めて導入の資料1を確認させて、この絵は、支配されていたり、統一国家を実現できていなかったりした国の人々が、独立や統一を目指して国旗を掲げている様子であることを解説する。

展開2

15 min

教科書に沿って、19世紀後半には国民国家を理想とするナショナリズムが高まったことや、それに伴って起こった民族問題などについて押さえる。また、フランスにおいては二月革命後から、普仏戦争などを経て第三共和政が確立するまでの流れを押さえる。

展開3

15 min

3~4人のグループになり、コラム「未来へ活かす歴史」や本文記述を確認しながら、国民国家が形成されたことによる、「現代的な諸課題」について話し合わせる。いくつかのグループに発表させて共有し、本時の授業と現代との関連を意識させる。

まとめ

5 min

「確認」の問い「ナショナリズムについての説明を、本文から書き出そう。」に取り組みさせる。また、「説明」の問い「1848年を境にヨーロッパでどのような変化が生じたか、説明しよう。」に取り組みさせて、「見直し・振り返りシート」に記入させる。

全体構成

特色①

特色②

特色③

見開き構成

単元紹介

QRコンテンツ

関連教材

国際秩序の変化や大衆化と私たち

3部 5章 7節 冷戦の展開と日本の独立

単元のポイント

3部「国際秩序の変化や大衆化と私たち」では、日本などで起こった大衆化による社会の変容と、同時に進んだ世界における国際秩序の変化が理解できるようにしました。また、二度の世界大戦それぞれにおいて、その始まりから、その後の世界に与えた影響までを一連の流れで学習できる構成にしています。

POINT 1

解説文では、「日本の領土」に関連するページ(p.179、p.196)を示しており、日本の領域の変遷や、現在の領土をめぐる問題についても認識できるようにしています。

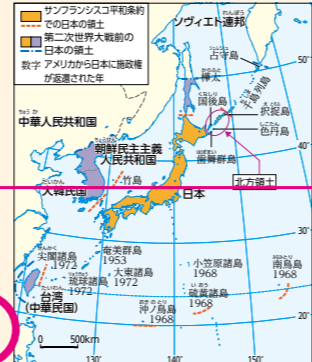
POINT 2

サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約が締結された背景には、冷戦を意識したアメリカの思惑が影響していることがわかるようにしています。

▼ p.147-148



↑1 サンフランシスコ平和条約に署名する吉田茂首相(1951年、アメリカ)



↑2 サンフランシスコ平和条約で定まった日本の領域 沖縄・奄美群島・小笠原諸島などの島嶼部はアメリカの施政権下に置かれ、日本への施政権返還は遅れた(→p.179)。竹島は、日本が放棄した領土に含まれていない(→p.196)。

平和条約を調印	アメリカ、イギリス、オーストラリアなど計48か国	会議を欠席	インド(1952) ビルマ(1954) ユーゴスラヴィア(1952)
調印を拒否	ソ連(1956→p.162) ポーランド(1957) チェコスロヴァキア(1957)	会議に招かれず	中華人民共和国(1972→p.180) 中華民国(1952)

※中華人民共和国を認める英と認めない米が対立したため

7 冷戦の展開と日本の独立

冷戦が激化するなか、GHQは日本共産党幹部の公職追放を指令し、その後、官庁や経済界でも共産党員やその支持者の解雇や追放が広がった(レッドパージ)。



↑3 輸出を待つアメリカ軍用トラック(1952年1月、愛知) 朝鮮戦争に参加するアメリカの軍事情資の調達を日本が引き受けたことで、日本国内の工場に注文が相次いだ。

アメリカの政策変更 中国の内戦において共産党の優勢が明らかになり、アジア各地で共産主義者の運動が活発になるなか、1948年秋からアメリカの占領政策は、日本を共産主義に対する防壁とするため、民主化改革から経済復興を目指すものへ転換した。アメリカは、日本経済を自立させるために厳しい財政の引き締めを命じ、1ドル360円の単一為替レートを設定した(ドッジライン)。これにより一時は景気が悪化した。インフレーションの抑制に成功した。その後、朝鮮戦争が始まると「国連軍」の補給拠点となった日本に朝鮮特需がもたらされ、経済復興が急速に進んだ。一方、アメリカ軍が朝鮮半島に出撃した後の国内治安を保つため、GHQの指令で警察予備隊が創設された。

平和条約と日本の独立回復 朝鮮戦争に中国が参戦し、緊張が高まるなか、日本の戦略的価値を重視したアメリカは、日本を西側陣営の一員として確立させるために、早期に占領を終わらせ平和条約を締結する方針を固めた。吉田茂内閣は、さまざまな議論があるなか、中国やソ連を含めた全面講和を諦め、西側諸国との講和(多数講和)を決定した。1951年9月、サンフランシスコ講和会議が開かれ、日本と48か国と

147 中学校との関連 朝鮮特需、警察予備隊、吉田茂、サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約、ワルシャワ条約機構

歴史の選択肢 全面講和と多数講和

日本が第二次世界大戦の交戦国と平和条約を結ぶにあたっては、アメリカなどの西側諸国とまず講和を締結すべきという多数講和(単独講和)論と、中国やソ連を含めたすべての国と締結を目指すべきという全面講和論の二つの論が生じた。これをめぐり、人々の間では大きな論争が起こった。

考えよう ①全面講和派の人々は、多数講和をすることによって、何が起ころうと思ったのか考えよう。 ②多数講和派の人々は、全面講和を主張しなかった理由を、これまでの3部5章の学習を踏まえて考えよう。

史料 平和問題談話会の声明

…中立不可侵も国際連合への加入も、凡て全面講和を前提とすることは明らかである。単独講和または事実上の単独講和状態に附随して生ずべき特定国家との軍事協定、特定国家のための軍事基地の提供の如きは、その名目が何であるにせよ、わが憲法の前文及び第九条に反し、日本及び世界の破壊に力を積むものであって、われわれは到底これを承諾することは出来ない。… (『世界』1950年3月号)

史料 内閣総理大臣 吉田茂の考え

…全面講和を望むことはわれわれとしては当然であるが、現在は逐次事実上の講和を結んでゆく以外にない (『毎日新聞』1950年5月4日) …米軍などの上のいわゆる単独講和はすでにできている。米軍からのあらゆる面での援助がそれを如実に示している。…われわれとしてはこの事実上の講和をまず法的に条約締結というところに推し進めてゆかねばならない (『朝日新聞』1950年5月9日)



↑4 ベルリンから逃れる兵士(1961年8月15日) 1961年8月12日の深夜から13日にかけて、西ベルリンは鉄条網と敷いた監視によって突然周囲から遮断され、その後「壁」が築かれていった。

の間でサンフランシスコ平和条約が締結された。同条約は翌52年4月に発効し、日本は独立国家として主権を回復した。しかし、沖縄などは日本から分離されたうえ、会議に参加できなかったアジア諸国や条約調印を拒否したソ連との講和が課題として残された。一方、平和条約と同時に締結された日米安全保障条約で、日本の独立後もアメリカ軍が引き続き日本国内に駐留することが決まった。日本はその後本格的な再軍備を行わず、アメリカに安全保障を依存することとなった。

東西両陣営の展開 1950年代になると、西ドイツは西側諸国の一員として国家の主権を回復した。マーシャル=プランの援助もあり経済復興を遂げ、1955年には再軍備とともにNATOに加盟した。これに危機感を抱いたソ連は、同年に軍事同盟であるワルシャワ条約機構を結成して対抗した。

一方、東ドイツは共産党への権力集中による社会主義体制をとったが、経済再建に苦しみ、多くの市民が西ベルリンを経由して西側に亡命した。61年、東ドイツ政府は西ベルリンの周囲に「ベルリンの壁」を築き、市民の流出による問題に対処した。「ベルリンの壁」は冷戦の象徴となり、東西ドイツの分断は、固定化された。

経済体制については、ソ連を中心とした東側諸国が社会主義思想に基づく計画経済体制をとったのに対し、西側は自由主義的な市場経済体制をとった。しかし西側諸国では行き過ぎた競争を規制し、社会保障を守るために国家が介入すべきとの考えも生まれ、福祉国家への道が模索された。

5章の振り返り 第二次世界大戦の経験と国際連合の設立は、国際協調を進めたといえるだろうか、あなたの考えを説明しよう。

未来へ活かす歴史

戦後の西欧の福祉政策

国民の戦争中の負担と戦後の苦境を前に、各国政府は、教育・住宅・医療などでの社会的サービスの給付と、社会的保障としての保険給付を、国家の役割と考え、社会立法に取り組んだ。イギリスがこの政策に熱心に取り組み、「揺りかごから墓場まで」という理想を実現しようとした。しかし福祉国家にはばく大な費用がかかる。大きな政府(→巻末1)を目指す福祉政策は財政負担となり、1970年代には不況と国民の労働意欲の低下が重なって、社会と経済の停滞をもたらした。



↑5 国民保健サービス(NHS)による予防接種(1950年、イギリス)

確認 日本と西ドイツが経済復興を果たせた要因について、それぞれ書き出そう。

説明 東西冷戦の展開によって、日本と東ドイツにはそれぞれどのような課題が残されたのか、説明しよう。

POINT 3

QRコンテンツには、本文や図版に関連する当時の映像を収録しており、歴史的な事象を視覚的にも理解できるようにしています。

POINT 4

章末ページの右下には、「章の振り返り」を設けています。「章の学習課題」に対して、みずからの考えを説明するよう促しています。

授業展開例

導入

5 min

導入の資料1、2、3を提示して、サンフランシスコ平和条約で定まった日本の領域と現在の領域とで異なっているところを確認させる。また、サンフランシスコ平和条約における調印・非調印の国を確認させる。「冷戦は、日本に対する占領政策や東西ドイツの動きにどのような影響を与えたのだろうか」を学習することを予告する。

展開1

20 min

教科書に沿って、「アメリカの政策変更」「平和条約と日本の独立回復」「東西両陣営の展開」について押さえる。特に、サンフランシスコ平和条約が締結された背景やその後の課題、東西ドイツの動きについて解説する。

展開2

15 min

3~4人のグループになり、コラム「歴史の選択肢」の「考えよう」①②に沿って、全面講和派、多数講和派それぞれの主張について話し合わせる。特に多数講和派に関しては、平和問題談話会の意見を参照させ、結果的に日本が選択した道について、3部5章の学習内容を振り返りながら考察するよう促す。いくつかのグループに発表させて、意見を共有させる。

まとめ

10 min

「確認」と「説明」の問いに取り組みさせて、「見通し・振り返りシート」に記入させる。最後に、3部5章の学習を振り返り、「第二次世界大戦の経験と国際連合の設立は、国際協調を進めたといえるか」について、みずからの考えをまとめさせる。

グローバル化と私たち

4部 3章 4節 経済発展に取り組む東・東南アジア

単元のポイント

4部「グローバル化と私たち」では、冷戦の対立のなかで、世界の各国がどのように政治的独立・経済的發展を目指したのかを扱っています。また、冷戦の終結によりグローバル化が進展し、国際情勢や社会がどのように変化してきたかが理解できるようにしています。

POINT 1

学習の導入で、ベトナムのまち並みに日本企業の看板が見られることを確認することで、当時の日本の経済的影響力をイメージしやすくしています。

▼ p.183-184

1 日本企業の看板が見られるまち並み (1994年、ベトナム・ホーチミン) 家庭用電気機器や精密機械をつくる日本企業の看板があちこちに掲げられている。

2 東南アジア諸国連合(ASEAN)の拡大

1988年 民主化運動の激化 → 軍事政権により停戦 → アウンサン・スーチー 多数に選ばれる自民政権

1992年 民主化運動 → 軍事政権崩壊

1970-91年 カンボジア内戦

ASEANの拡大

- 1967年(結成時)
- 84年
- 97年
- 95年
- 99年

1986年 ドイモイ(刷新)政策(社会主義のなかで市場経済化を進める)

1986年 マルコス政権崩壊 → アキ/政権成立(-92)

1998年 民主化運動激化 → スハルト政権崩壊

東ティモール

4 経済発展に取り組む東・東南アジア

東・東南アジアの経済発展

1960年代から韓国でも高度経済成長が進んでいたが、一方で政治面では朴正熙大統領による事実上の独裁が展開していた。朴正熙は1979年に暗殺されたが、93年まで軍人政権が続き、80年には南部の光州で民主化を求める運動への武力弾圧が行われた。また、マルコス大統領統治下のフィリピン、スハルト大統領統治下のインドネシアでも独裁が行われ、民衆の反発を招いていた。

このような独裁政権は、経済基盤の維持と独裁の正当化を目的に、経済開発を強行したことから**開発独裁**とよばれた。開発独裁は、急速な経済発展を可能とした反面、当面の利益追求を急ぐために輸出品の生産を極端に優遇するなどバランスを欠いた開発を行った。また民主的な諸制度を欠いた**圧政**の下で、富が一部の特権的集団に集中し**貧富の差**や**社会不安の拡大**をもたらすことにもなった。開発独裁は東南アジアのほか、南米でもみられ、軍事クーデタで成立した**ブラジル**や**チリ**の軍事政権は、人権を抑圧し強権的な政策を展開した。

東南アジアでは、1967年に、地域の平和・安定化と経済発展を目指す**東南アジア諸国連合(ASEAN)**が結成され、経済発展が進んだ。5か国からスタートしたASEANは、経済的関係を強めていた日本の仲介によってベトナム・ラオス・カンボジアが加盟し、加盟国は10か国に増えて同地域の安定化に貢献した。また、

183 中学校との関連 東南アジア諸国連合(ASEAN)、新興工業経済地域(NIEs)

POINT 2

独裁政権下で行われた開発独裁は、急速な経済発展を可能とした反面、民主的な諸制度を欠いた圧政により、社会不安の拡大をもたらしたことがわかるようになっています。

南米の日系社会

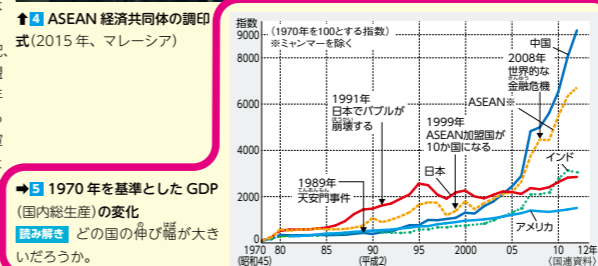
約120年前に始まるブラジルへの日本人移民(→p.110)は、第二次世界大戦による国交断絶で中断するも、1951年の国交回復により再開され、現在、その子孫を含め約270万の日系人が暮らしている。日本との政治・経済・文化的交流も深く、90年代に入るとブラジルから日本への「出稼ぎ」も増加した。

3 ブラジルの東洋人街(サンパウロ)

184

地域紛争の調停に成功したASEAN

ASEANは、ベトナム戦争下の1967年に結成された。結成当初は、アメリカの支援による反共軍事同盟の側面が強かったが、68-69年のマレーシア・フィリピン間の領土紛争を沈静化させるなど、しだいに地域の平和と安定および経済開発を目指す側面を強めていった。ASEANが掲げる、民主主義、人権、法の支配、紛争の平和的解決などの原則は、その後の加盟国の増加と地域の安定化につながり、2015年には政治安全保障・経済・社会文化の3分野からなるASEAN経済共同体(→p.192)の設立を宣言するまで発展した。約6億6000万人の人口と高い購買力を持ち、アジアの海上交通の要衝でもあるASEANの安定と発展は、国際経済や安全保障における重要性を高めており、日本も同地域への投資や協力関係の強化に努めている。



POINT 3

本文に関連する資料と、読み解く視点を各所に設置することで、学習内容への理解がより深まるようになっています。

70年代末には韓国・台湾・香港・シンガポールの国や地域が、輸出指向型の工業化により高度経済成長を遂げ、所得水準を急伸させたことで注目を浴び、**新興工業経済地域(NIEs)**とよばれるようになった。

これらの経済発展には、先進国からのODAやOECDによる経済援助による貢献もあった。とりわけ日本は撤退したヨーロッパの宗主国に代わるかたちで経済援助を進め、バブル経済期に円高となってからは、ASEAN諸国の外資導入規制緩和もあって、さらに積極的な投資がなされた。

アジアの社会主義国の変容

1970年代後半、経済的停滞や非民主主義的な統治が続いていた社会主義諸国では、米中の緊張緩和進展もあって、体制維持のための新たな対応に迫られていた。

中国では、毛沢東の死後、文化大革命で立ち遅れた経済などを立て直すため、**鄧小平**を中心に国防・工業・農業・科学技術の**四つの現代化**が進められた。鄧は、共産党の一党独裁を堅持しつつ、経済特区設置などの外資と市場経済を導入する**経済政策(改革開放政策)**を展開した。

北朝鮮では、ソ連や中国とも一線を画しつつ、金日成を指導者とする朝鮮労働党の一党独裁体制が確立された。金日成の死後、その権力は党や国の手続を経て、**金正日**に事実上世襲された。

ベトナムは、1978年末にカンボジアへ侵攻したが、89年に撤退した。86年以降は、共産党独裁を維持しつつ経済活性化のために**ドイモイ**(刷新)政策がとられ、開放路線に転じてASEANにも加盟した。



1 来日した鄧小平(1978年) 周恩来(→p.169)の下で活動し、文化大革命中は資本主義派として批判され、生涯に3度失脚し3度復活した。天安門事件(→p.191)では武力鎮圧を行うが、その後も改革開放政策を続行した。

確認 高度な経済成長を経験したアジア諸国の国名を、60年代、70年代、80年代でそれぞれ、本文から書き出そう。

説明 韓国・フィリピン・インドネシア・中国の経済発展に共通する点について、説明しよう。

POINT 4

ASEANの加盟国が増えたことや、東・東南アジア諸国の経済発展に、日本が深く関わっていたことがわかるようになっています。

授業展開例

導入

5 min

導入の資料1を提示して、「なぜベトナムに多くの日本企業の看板が掲げられているのか」と問いかけ、予想させる。「なぜ、東・東南アジアの国々は経済成長に成功したのだろうか」を学習することを予告する。

展開1

20 min

教科書に沿って、「東・東南アジアの経済発展」について押さえる。3~4人のグループになり、資料2を提示して、「読み解き」の問い「1970年~90年代の東南アジア各国はどのような政治体制であったらうか。」について話し合わせる。いくつかのグループに発表させて、気づいたことを共有させる。

展開2

20 min

教科書に沿って、「ASEANの誕生」「アジアの社会主義国の変容」について押さえる。改めて資料1を提示しながら、バブル経済期の日本がベトナムなどの東・東南アジア諸国に多くの投資をしていたことを解説する。また、中国においては、経済政策を転換し、改革開放政策を進めたことを解説する。

まとめ

5 min

「確認」の問い「高度な経済成長を経験したアジア諸国の国名を、60年代、70年代、80年代でそれぞれ、本文から書き出そう。」に取り組ませる。「説明」の問い「韓国・フィリピン・インドネシア・中国の経済発展に共通する点について、説明しよう。」に取り組ませて、「見通し・振り返りシート」に記入させる。

全体構成

特色①

特色②

特色③

見開き構成

単元紹介

QRコンテンツ

関連教材

教科書内容の理解を助ける 充実のQRコンテンツ

教科書の各所に配置しているQRコードを読み取ることで、学習内容の理解を深めるさまざまなコンテンツをご利用いただけます。

※QRコードを読み取り、表示されたウェブサイトへアクセスした際には、通信料がかかる場合があります



<https://tks46.jp/08hs/his>

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

▼QRコンテンツトップページ

明解 歴史総合

人物紹介

地図

年表

一問一答

用語解説

動画

NHK ONE for School

見通し・振り返りシート

歴史に迫る！ワークシート

思考ツール・白地図

外部リンク

スマートフォンからも
閲覧可能

帝国書院

地図 全10点

各時代ごとの地図や、巻頭の現在の世界地図を収録しています。
拡大・縮小機能もあり、細部まで確認することができます。

▼19世紀後半の世界

▼現在の世界

人物紹介 全120点

世界・日本の近現代史における主要な人物について紹介しています。また、教科書に掲載していない人物も収録しています。検索機能もあり、調べたい人物をすぐに確認できます。

年表 全1点

18世紀以降の、日本と世界の年表です。
日本と世界の同時代の歴史を確認できます。

一問一答 全570問

重要用語とその意味を確認できます。ブックマーク機能で間違えた問題だけピックアップし、繰り返し取り組むことができます。

用語解説 全178語

教科書に掲載している重要用語などの定義や意味を確認できます。検索機能もあり、調べたい用語をすぐに確認できます。

動画、NHK ONE for School 動画全30点 NHK ONE for School全65点

図版や本文に関連する当時の動画と、NHK ONE for Schoolの動画へのリンクを収録しています。

見通し・振り返りシート 全18点

部・章の見通しページと振り返りページに対応したワークシートです。

歴史に迫る！ワークシート 全5点

特設「歴史に迫る！」に対応したワークシートです。

思考ツール・白地図 思考ツール全11種 白地図全93点

思考ツールの解説動画とワークシート、世界と日本の白地図を収録しています。

外部リンク 全20点

主体的な学習に活用できる外部ウェブサイトのリンク集です。

ご指導を支援する教科書関連教材が充実しています

※ 内容は一部変更になる可能性があります

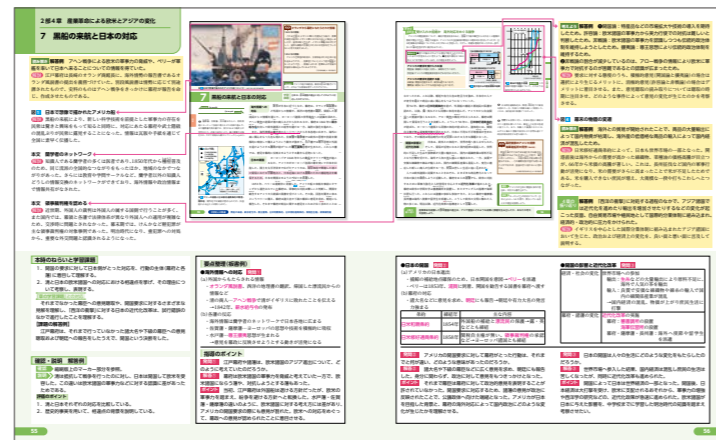
指導資料Webサポートコンテンツ付

<p>①指導用教科書</p>	<p>●教科書紙面の縮刷版を中心に置き、その周りに本文や図版の解説や発問例などを掲載しています。</p>
<p>②指導書 Web サポート</p>	<p>●授業をサポートするコンテンツを多数収録しています。</p> <p>●帝国書院のウェブ会員ページよりお使いいただけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■教科書紙面ビューア ■授業スライド(.pptx/Googleスライド) ■授業プリント(生徒用・教師用).(docx) ■見通し・振り返りシート(生徒用・教師用).(docx/Googleスプレッドシート) ■「歴史に迫る!」ワークシート(簡単版・詳細版)(生徒用・教師用).(docx) ■教科書本文(.txt) ■教科書掲載図版(カラー・モノクロ).(jpg) ■図版アニメーション ■年間指導計画案・評価規準例(.xlsx) ■学習課題・説明などの解答例(.txt) ■評価問題例(テスト例).(docx) ■動画へのリンク ■一問一答のデータ(.xlsx) ■用語解説のデータ(.xlsx) ■白地図集(.jpg) ■参考文献リスト(.docx) ■教科書QRコンテンツへのリンク
<p>③指導用教科書・指導書 Web サポートの使い方</p>	<p>●指導用教科書の使い方と、指導書Webサポートのコンテンツを紹介しています。</p>

定価：28,600円(本体26,000円+税)

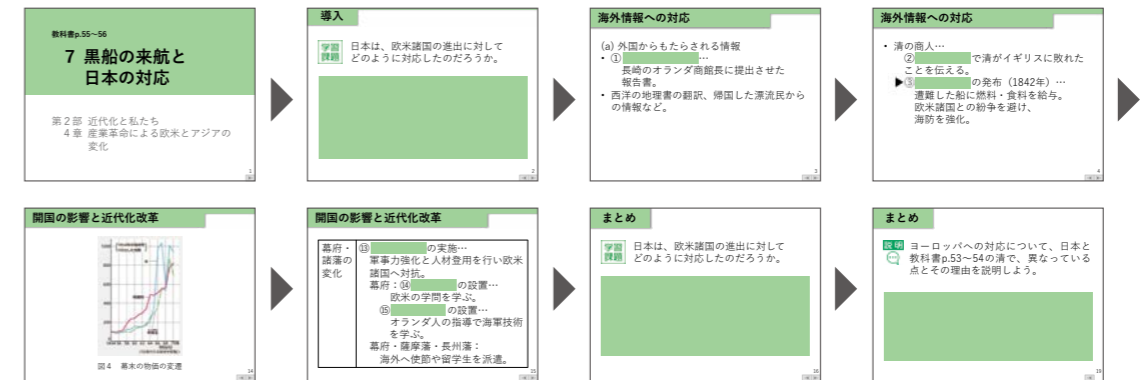
指導用教科書

▶教科書紙面の縮刷版を中心に置き、その周りに本文や図版の解説や板書例、「学習課題」「確認」「説明」の解答例などを掲載しています。



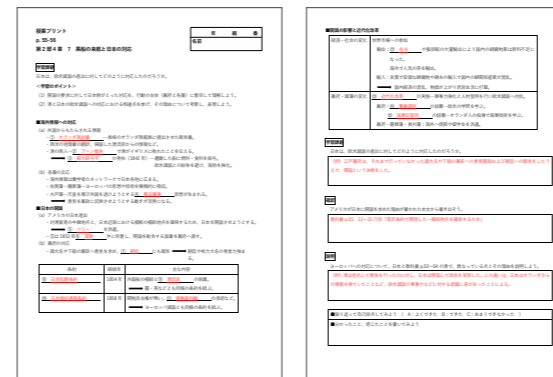
授業スライド

▶教科書本文ページ1見開きにつき、10~20枚のスライドを収録しています。加工してもお使いいただけます。
▶PowerPointとGoogleスライドの2形式で収録しています。



授業プリント

▶授業スライドに対応したプリントを収録しています。加工してもお使いいただけます。



教科書紙面ビューア

▶教科書紙面を先生方の端末でご覧いただけるビューアです。※ダウンロードはできません



副教材



明解歴史総合ノート
教科書に完全準拠したフルカラーのノートです。知識の定着とともに、資料読解問題により、思考力・判断力・表現力を養えます。



明解歴史総合図説 シンフォニア
日本と世界の関わりがわかるように構成しています。資料の読み解きを軸に、楽しく学べる資料集です。



特色一覧

項目	特色
総合的な特色	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本のつながりがわかる本文や単元構成によって、世界とその中の日本の近現代史を相互的な視野で学習できる。 豊富な特設とコラムで、興味・関心をもち、主体的に歴史を考察する力が育成できる。 見通し・振り返りを充実させたことによって、学習内容が着実に深まる教科書になっている。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 日本と世界の相互的な関係を、多面的・多角的にとらえることができるように本文や単元構成が工夫されており、各所に置かれたコラム「世界の中の日本」によって、「世界とその中の日本」の視点をさらに深めることができるようになっている。 各地域の風土と前近代史が、巻頭の資料「地域の歩み1~5」で簡潔に紹介されており、近現代史を理解するために必要な知識を習得しやすいように配慮されている。 世界を同時代的に概観する地図を多数掲載し、日本と世界のつながりが理解できるようになっている。 1部2章「歴史の特質と資料」で、「歴史的な見方・考え方」について例示しながら解説し、資料を読み解いたり、多面的・多角的に考察したりする際に必要な視点がわかるようになっている。 部の冒頭にある「部の導入」では、中学校での既習事項や、学習内容と現在との関連性や相違点がわかる資料をもとに、生徒自身が「問い」を立てられるように工夫されている。 部の終わりにある「部の振り返り」では、「近代化」・「国際秩序の変化や大衆化」・「グローバル化」それぞれのテーマについて、「現代的な諸課題」の形成に関わる近現代の歴史の考察、構想が3ステップで無理なくできるように工夫されている。 特設「明解！近現代史」では、部の学習を振り返るにあたり、特に重要な事項や概念の歴史的経緯を、資料や年表、文章から大観できるように工夫されている。 特設「生活・文化から見る日本と世界」では、ビジュアルな資料と文章から、日本と世界の文化的なつながりがわかるようになっている。 テーマに沿って学習を深める特設「歴史に迫る！」やコラム「歴史の選択肢」が設けられており、アクティブ・ラーニングがしやすいように配慮されている。 コラム「未来へ活かす歴史」では、これからの未来を考えるうえで、参考にして欲しい事項を紹介しており、「現代的な諸課題」と関連づけて学習できるようになっている。 特設「探究レポート」では、生徒に身近な「もの」や「出来事」をテーマに、重要な事象や概念について理解を深めることができるようになっている。 特設「技能を磨く」では、歴史学習に欠かせない重要な技能がまとめられ、歴史的な技能を着実に習得し、歴史的な見方・考え方を働かせられるようになっている。 巻末の特設「歴史総合 頻出用語解説」で、重要な歴史用語が丁寧に解説されている。
構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に合わせて、重要事項が適切かつ丁寧に解説されている。また、発展的な内容も学習できるように側注欄の解説や資料、特設コーナーが充実している。 各部、各章に設置した「部の導入・部の振り返り」、「章扉・章の振り返り」により、学習の「見通し」と「振り返り」がしやすい構成になっている。 原則、1時間1見開きで構成され、分量が適量で学習計画を立てやすくなっている。 導入資料→学習課題→展開→確認・説明と学習の流れが整理されているため、効果的に学習できるようになっている。
表記・表現及び使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> AB判のワイドな判型を生かして、写真やグラフ、地図などの資料が豊富に設けられており、視覚的にも理解しやすくなっている。 本文ページの左上には、導入資料と発問「読み解き」が設置されており、生徒が資料を読み解き、考察する力を身につけられるようになっている。 本文ページ左端には、「地域インデックス」を付しており、見開きで扱っている地域を把握できるように工夫されている。 本文ページの右端の印は、巻末3の日本の歴史年表に対応しており、見開きで扱っている時代を把握できるように工夫されている。 歴史事象の因果関係を丁寧に記述し、理解しやすい本文となっている。また、中学校で学ぶ漢字の読みにもふりがなを付し、重要語句へのゴシック(太字)も効果的につけられている。 中学校で学習した用語は、本文ページ左下の「中学校との関連」コーナーで取り上げられている。 本文行間には、関連する事項が扱われているページの参照ページや、関連図版・コラム・QRコードへの図番号・参照マークが振られている。
ユニバーサルデザインへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 本文や側注、キャプションなどの文字には、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォント(UDフォント)が使用され、誤読を防ぐ配慮がなされている。 カラーユニバーサルデザインを採用し、色覚特性のある学習者にも読み取りやすい表現になっている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 紙は環境に配慮し、かつ裏写りがしない用紙となっている。 使用期間の間、破損することがないよう、堅牢なつくりになっている。 指導資料や準拠ノートなど、充実した関連教材が用意されている。

著作関係者

※所属・肩書は令和8(2026)年3月時点のもの

著作者

青木 一真 (東京都立国際高等学校指導教諭)
 井上 正也 (慶應義塾大学教授)
 大橋 康一 (滋賀県立高等学校元教諭)
 加藤 健司 (愛知県立明和高等学校教諭)
 川崎 亜紀子 (東海大学元教授)
 川手 圭一 (東京学芸大学教授)
 木村 直樹 (長崎大学教授)
 黒木 英充 (東京外国語大学教授)
 後藤 誠司 (京都市立高等学校元教諭)

瀧井 一博 (国際日本文化研究センター教授)
 奈良岡 聰智 (京都大学教授)
 二井 正浩 (成蹊大学教授)
 野々山 新 (愛知県立大府高等学校教諭)
 本間 靖章 (北海道札幌南高等学校教諭)
 松重 充浩 (日本大学教授)
 美那川 雄一 (静岡県立小山高等学校教諭)
 三原 慎吾 (兵庫県立青雲高等学校校長)
 矢景 裕子 (神戸大学附属中等教育学校教諭)
 株式会社帝国書院

編集協力者

笹川 裕史 (大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎元教諭)
 西村 克仁 (同志社香里中学校・高等学校教諭)
 福永 徳善 (桐蔭学園高等学校教諭)
 松下 洋巳 (桐蔭学園高等学校教諭)
 虫本 隆一 (同志社香里中学校・高等学校教諭)
 矢部 正明 (関西大学中等部・高等部教諭)
 山田 道行 (京華中学高等学校教頭)

特別支援教育に関する監修・校閲者

丹治 達義 (筑波大学附属視覚特別支援学校教諭)